



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

平成23年度 年次報告書



センター長ご挨拶



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
センター長 河田 恵 昭

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、平成 14 年の開館からこれまでに、阪神・淡路大震災の経験と教訓を広く国内外に発信する施設として全国、全世界から注目を浴び、毎年約 50 万人の方々にご来館いただいております。

さて、平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、津波等により多数の方が犠牲となりました。謹んで哀悼の意を表します。千年に一度とも言われる今回の巨大災害を通じて、今後長期にわたる被災地の復興に向けた取り組みの推進とともに、東海・東南海・南海地震など将来の大規模災害に備えた防災・減災対策の重要性が改めて認識されました。

当センターでは、ミッションに従い、東日本大震災の発災直後から活動を開始し、その後も 6 月下旬まで約 3 か月間、研究員が被災地に常駐し、主として政府及び宮城県の対策本部においてブリーフィング、資料提供、助言等を行ってきました。また、政府現地対策本部の紹介により、南三陸町の復興計画策定への支援を行いました。これらの現地支援活動に加え、宮城県の災害対応検証事業への協力等を通じ、これまでの研究成果を災害対策に役立てることができました。

センター展示においては、研究員による特別展「東日本大震災現地レポート」など、全国からの来館者に被災地の情報をわかりやすく提供しています。

多くの貴重な震災資料を収集・保存する資料室では、これまでの阪神・淡路大震災の資料に加え、東日本大震災関連文献等の収集を行い、その利活用に取り組んでいます。

防災研究では、東日本大震災被災地での研究員たちの経験も糧として、中核的研究テーマ「巨大災害時における社会的対応能力の向上」を設定し、自治体の災害対応能力の向上や組織間連携の強化につながる実践的な研究を進めています。

災害対策専門研修については、カリキュラムに工夫を重ねるなか、募集定員を上回る応募があり、研修への信頼性も増してきております。

これまでセンターが構築してきた、防災に関わる実務者、研究者、市民、教育機関、企業などの多様なネットワークも、このたびの大震災の被災地支援に大いに活用されました。

平成 24 年 4 月で、人と防災未来センターは開設 10 周年を迎えました。今後も当センターのミッションに基づき、着実に積み重ねてきたこれまでの成果を活かし、世界的な防災研究の拠点として、減災社会の実現に貢献していく所存です。

関係各位のお力添えに感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

人と防災未来センターのミッション

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に活かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献する。

このため、震災の展示を通じて防災の重要性や共に生きることの大切さを広く市民に訴える。また、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた連携などを、展示を含め一体のものとして推進し、知恵や情報の効果的な創出と体系化を進め、共有を促進する。

事業ごとのサブ・ミッション

展示

被災者・市民・ボランティアなど多くの人々の協力と連携のもと、阪神・淡路大震災の経験や教訓をわかりやすく展示し、世界の市民や未来を担う子ども達に効果的に情報発信することにより、市民・来館者一人ひとりが、防災・減災の重要性やいのちの尊さ、共に生きることの大切さなどを真摯に受け止め、共に考え、学ぶことを促進する。

資料収集・保存

阪神・淡路大震災の記憶を風化させることなく、被災者の想いと震災の教訓を資産として共有し次世代へ継承するため、被災地において地域社会と関わりを保ちながら震災や防災に関する資料を継続的に収集・蓄積し、データベース化する。そして、防災情報を市民にわかりやすい形で整理し、発信する。

実践的な防災研究

阪神・淡路大震災の経験と教訓、学術的な知見や蓄積された研究成果に基づき、我が国の防災上の課題を的確にとらえ、政府・地方自治体・コミュニティ・企業などの防災政策や災害対策の立案・推進に資する実践的な防災研究を実施する。そして、知の新たな体系化と、その学術的価値の確立を先導する。

災害対策専門職員の育成

阪神・淡路大震災の経験を具体的に伝えとともに、最新の研究成果を踏まえ、防災に関する実践的知識や技術を体系的・総合的に提供することにより、地方自治体の防災担当職員など災害対策実務の中核を担う人材を育成する。そして、これを通じて関係各組織の災害対応能力の向上に貢献する。



若手防災専門家の育成

阪神・淡路大震災の経験と教訓に精通し、実践的な防災研究を推進する高い能力を備え、社会の防災力向上に向けて常に思考し働きかけることのできる行動力や、災害の諸様相に関する確かな想像力を有し、将来それぞれの立場や観点で防災を牽引することが期待される若手防災専門家を育成する。

災害対応の現地支援

大規模災害時に、災害対応の実践的・体系的な知識を有する人材を災害対策本部等に派遣し、災害対応を統括する者に適切な情報提供や助言を行い、被災地の被害軽減と復旧・復興に貢献する。また、所要の知見の蓄積・体系化や派遣体制の整備、本活動の浸透に向けた社会的な環境の醸成に努める。

交流ネットワーク

阪神・淡路大震災や防災に関わる行政実務者・研究者・市民・企業など多様なネットワークの交差点となり、様々な知恵や人材の出会いと、国内外の連携の場となることを通じて、社会の防災力向上のための取り組みを促進する。

人と防災未来センター平成 23 年度年次報告書 目次

センター長ご挨拶

人と防災未来センターのミッション・サブミッション

平成 23 年度を振り返って

I 章 展示

1 節	利用者の動向	2
2 節	常設展示施設の概要	17
3 節	企画展の概要	30
4 節	運営ボランティアの活動等	48
5 節	VIP 等の視察対応	52

II 章 資料収集・保存

1 節	資料収集と整理	56
2 節	資料室における相談業務・情報発信	60
3 節	震災資料の活用	65
4 節	資料を通じた交流・ネットワーク	68

III 章 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

1 節	実践的な防災研究と若手防災専門家育成の考え方について	74
2 節	研究員の取り組み	77
3 節	中核的研究プロジェクトおよび特定研究プロジェクトの推進について	125
4 節	研究員の多彩な活動	138
5 節	研究成果の発信	141

IV 章 災害対策専門職員の育成

1 節	災害対策専門研修	144
2 節	フォローアップセミナー	153
3 節	国際協力機構（JICA）からの受託研修等	154

V 章 災害対応の現地支援

1 節 平成 23 年度災害対応の現地支援のしくみ	156
2 節 災害対応の現地支援概要	157
3 節 災害対応の検証	163

VI 章 交流・ネットワーク

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動	170
2 節 友の会	175
3 節 情報発信	177

VII 章 事業評価委員会

1 節 事業評価委員会	192
-------------------	-----

参考資料

資料 1 整備の趣旨・目的	194
資料 2 施設概要	196
資料 3 沿革	197
資料 4 組織	199
資料 5 平成 23 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書	200
資料 6 資料室のあらまし	201
(1) 資料室の概要	
(2) 震災資料の収集・保存事業の経緯	
(3) 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数	
(4) 人と防災未来センターにおける調査の流れと データベース（資料点数）の関連	
資料 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター	209
資料 8 研修カリキュラム表	210
資料 9 センター刊行物	218

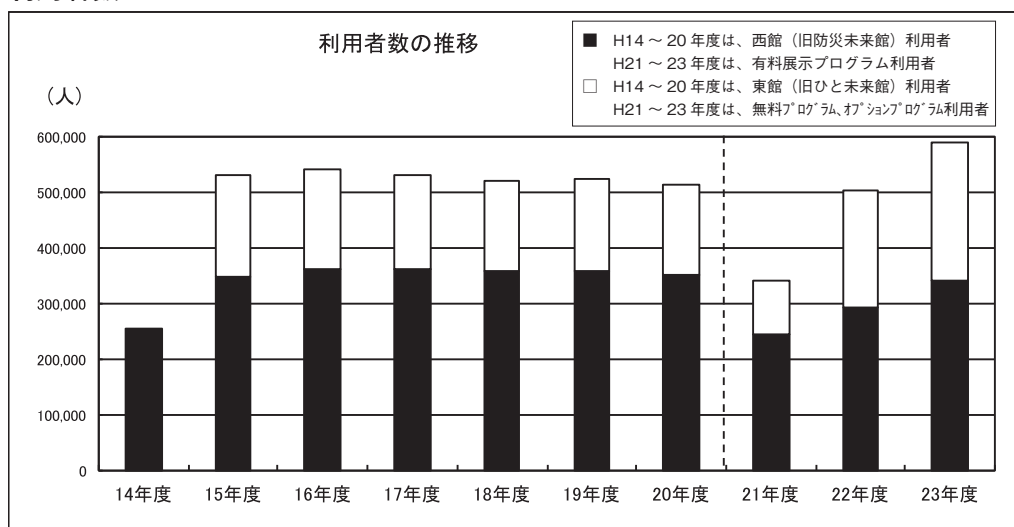
I 章 展示

- 1 利用者の動向
- 2 常設展示施設の概要
- 3 企画展の概要
- 4 運営ボランティアの活動等
- 5 VIP 等の視察対応

I 章 展示

1 節 利用者の動向

1 利用者数



〔平成 14～20 年度〕

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	—	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	—	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

〔平成 21～23 年度〕

	21年度	22年度	23年度	小計(H21-23)	合計(H14-23)
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	1,432,606	4,852,407
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	877,733	
無料・オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	554,873	
1日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,537	1,562
有料展示プログラム	792	936	1,094	942	
無料・オプションプログラム	319	676	787	595	
営業日数(日)	307	312	313	932	3,106

「利用者数」

※平成14年度の利用者数は防災未来館のみの利用者数。

平成14年4月27日 西館(旧防災未来館)オープン

平成15年4月26日 東館(旧ひと未来館)オープン(グランドオープン)

※平成15～20年度の利用者数は、西館(旧防災未来館)、東館(旧ひと未来館)それぞれの利用者数の合計数。

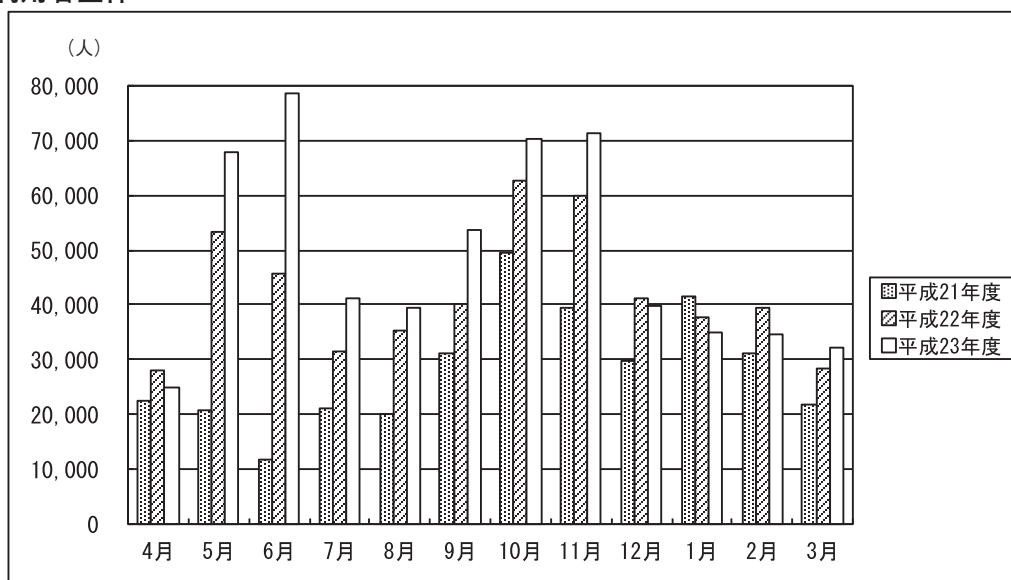
※平成21年度以降の利用者数は、有料展示プログラム利用者数に加え、資料室利用や各種の研修・ワークショップ・セミナー・イベント参加等の無料プログラムの利用者数及びこころのシアター利用等のオプションプログラムの利用者数の合計数。

(料金体系の変更、無料プログラムの増大等に伴い、利用者数算定の方法を、館区分別から有料・無料等プログラム区分別に変更。)

- ・平成 21 年度の利用者数が大幅に少ないのは、新型インフルエンザの兵庫県内発生による予約キャンセルや、その後の全国的なまん延による出控え、旅行自粛等の影響と考えられる。
- ・平成 23 年度の利用者数は 588,731 人で、平成 22 年度の 502,865 人に比べて、85,866 人、17.1%増加した（うち有料展示プログラム利用者については 342,507 人で、平成 22 年度の 292,092 人に比べて、50,415 人、17.3%増加）。これは、東日本大震災の発生により、防災に対する関心が高まったこと、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。

2 利用者の月別状況

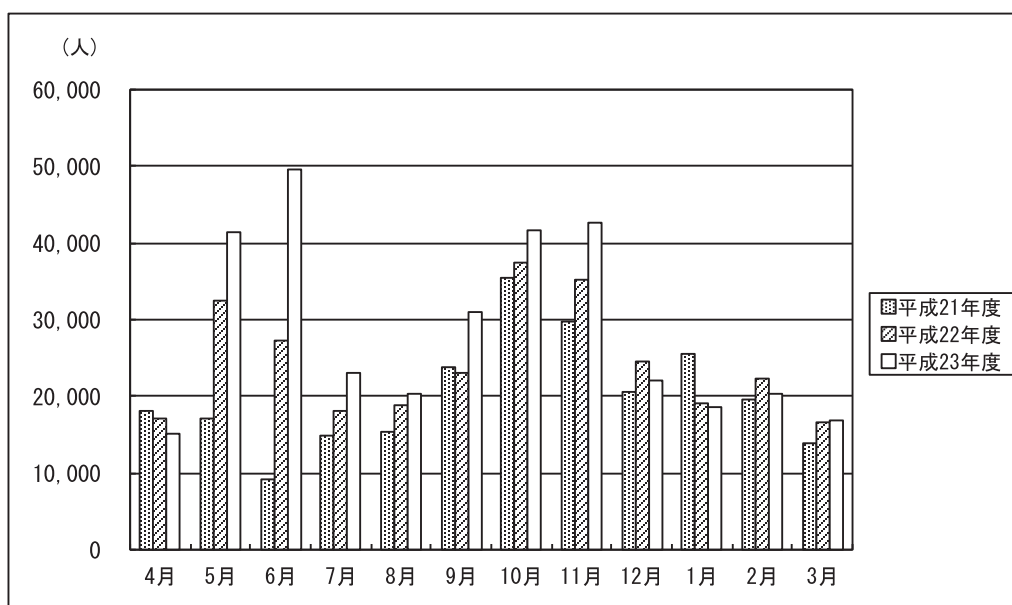
(1) 利用者全体



(単位: 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	4,512	27,626	25,056	19,762	18,435	23,141	37,616	36,244	13,238	16,952	18,380	15,827	256,789
平成15年度	19,690	56,046	49,018	42,526	39,324	40,887	75,822	70,871	28,463	33,412	37,907	38,207	532,173
平成16年度	30,251	60,068	43,598	34,698	38,540	36,154	67,234	67,857	32,749	45,242	42,610	41,621	540,622
平成17年度	32,301	58,348	46,947	35,495	34,731	45,972	71,306	72,367	29,237	32,430	37,505	34,846	531,485
平成18年度	31,175	57,664	42,676	32,524	35,361	43,656	72,918	75,236	28,027	34,605	34,715	31,459	520,016
平成19年度	28,983	62,099	43,890	27,626	35,943	42,644	75,466	76,403	30,189	39,949	35,461	26,971	525,624
平成20年度	27,656	60,722	45,097	29,446	33,088	39,862	79,334	70,953	29,024	38,846	33,548	25,516	513,092
平成21年度	22,627	20,918	11,928	21,257	19,932	31,053	49,590	39,338	29,685	41,611	31,100	21,971	341,010
平成22年度	28,198	53,336	45,600	31,448	35,405	40,120	62,536	59,809	41,134	37,676	39,310	28,293	502,865
平成23年度	24,893	68,035	78,503	41,048	39,611	53,558	70,397	71,320	39,811	34,856	34,648	32,051	588,731

(2) 有料展示プログラム利用者のみ



(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成21年度	18,049	17,089	9,215	14,955	15,282	23,857	35,537	29,714	20,543	25,473	19,635	13,785	243,134
平成22年度	17,005	32,445	27,386	18,216	18,773	23,176	37,482	35,170	24,458	19,195	22,215	16,571	292,092
平成23年度	15,122	41,458	49,617	23,151	20,258	30,902	41,641	42,753	22,026	18,563	20,215	16,801	342,507

・平成23年度の月別利用者数は、例年と同様に、修学旅行等のシーズンである5～6月及び10～11月が多い。東日本大震災等の影響で、例年に比べて5～11月（特に5～6月）の利用者が伸びている。

3 観覧者（有料展示プログラム利用者）の区分別状況

「観覧者」

※利用者のうち有料展示プログラム利用者を指す。（「団体予約」・「個人」の2区分ごと、また「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」の3区分ごとに集計。）

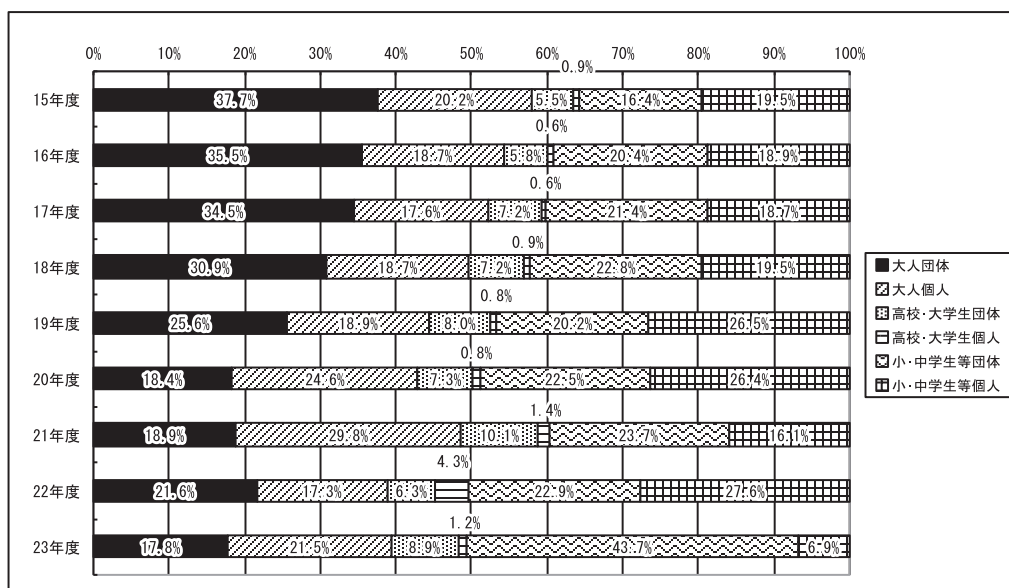
(上段：人数)

(下段：構成比率)

区 分	団体予約									
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
大 人	—	200,525 37.7%	192,071 35.5%	183,423 34.5%	160,634 30.9%	134,627 25.6%	94,263 18.4%	45,846 18.9%	63,106 21.6%	61,080 17.8%
高校・大学生	—	29,178 5.5%	31,365 5.8%	38,365 7.2%	37,287 7.2%	42,206 8.0%	37,584 7.3%	24,668 10.1%	18,514 6.3%	30,343 8.9%
小・中学生等	—	87,054 16.4%	110,397 20.4%	113,779 21.4%	118,431 22.8%	105,972 20.2%	115,542 22.5%	57,633 23.7%	66,895 22.9%	149,687 43.7%
計	147,515 57.4%	316,757 59.5%	333,833 61.7%	335,567 63.1%	316,352 60.8%	282,805 53.8%	247,389 48.2%	128,147 52.7%	148,515 50.8%	241,110 70.4%

区 分	個人									
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
大 人	—	107,283 20.2%	101,311 18.7%	93,517 17.6%	97,494 18.7%	99,162 18.9%	126,037 24.6%	72,437 29.8%	50,493 17.3%	73,769 21.5%
高校・大学生	—	4,589 0.9%	3,467 0.6%	3,161 0.6%	4,855 0.9%	4,307 0.8%	4,175 0.8%	3,514 1.4%	12,511 4.3%	4,054 1.2%
小・中学生等	—	103,544 19.5%	102,011 18.9%	99,240 18.7%	101,315 19.5%	139,350 26.5%	135,491 26.4%	39,036 16.1%	80,573 27.6%	23,574 6.9%
計	109,274 42.6%	215,416 40.5%	206,789 38.3%	195,918 36.9%	203,664 39.2%	242,819 46.2%	265,703 51.8%	114,987 47.3%	143,577 49.2%	101,397 29.6%

区 分	観覧者 合計									
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
大 人	—	307,808 57.8%	293,382 54.3%	276,940 52.1%	258,128 49.6%	233,789 44.5%	220,300 42.9%	118,283 48.6%	113,599 38.9%	134,849 39.4%
高校・大学生	—	33,767 6.3%	34,832 6.4%	41,526 7.8%	42,142 8.1%	46,513 8.8%	41,759 8.1%	28,182 11.6%	31,025 10.6%	34,397 10.0%
小・中学生等	—	190,598 35.8%	212,408 39.3%	213,019 40.1%	219,746 42.3%	245,322 46.7%	251,033 48.9%	96,669 39.8%	147,468 50.5%	173,261 50.6%
計	256,789 100.0%	532,173 100.0%	540,622 100.0%	531,485 100.0%	520,016 100.0%	525,624 100.0%	513,092 100.0%	243,134 100.0%	292,092 100.0%	342,507 100.0%



・平成23年度は、「団体予約」・「個人」別では、「団体予約」が70.4%で、前年度の50.8%に比べて19.6ポイント増えている。

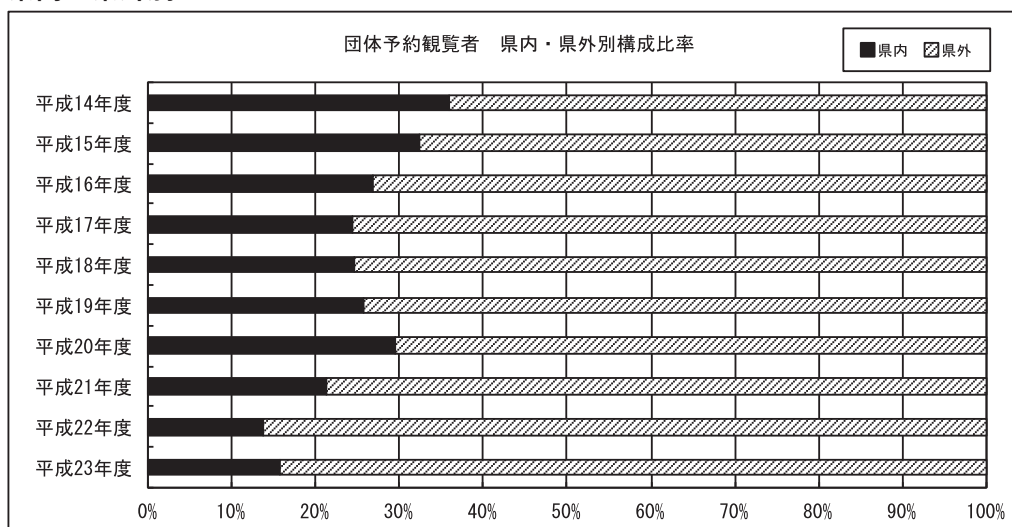
・「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」別では、「小・中学生等」が50.6%で前年度と同様に半数以上を占め、「高校・大学生」を含めると全体の60%を超えている。

4 団体予約観覧者（有料展示プログラム利用者）の状況

「団体予約観覧者」

※観覧者のうち団体予約による者を指す。（地域ごと、団体種類ごとに集計。）

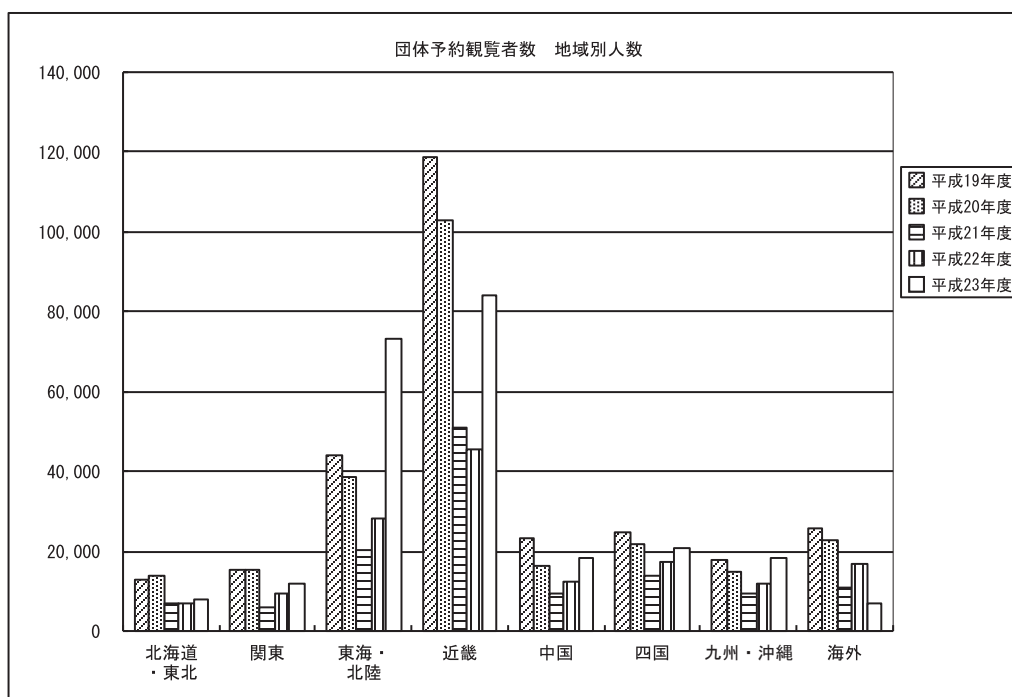
(1) 県内・県外別



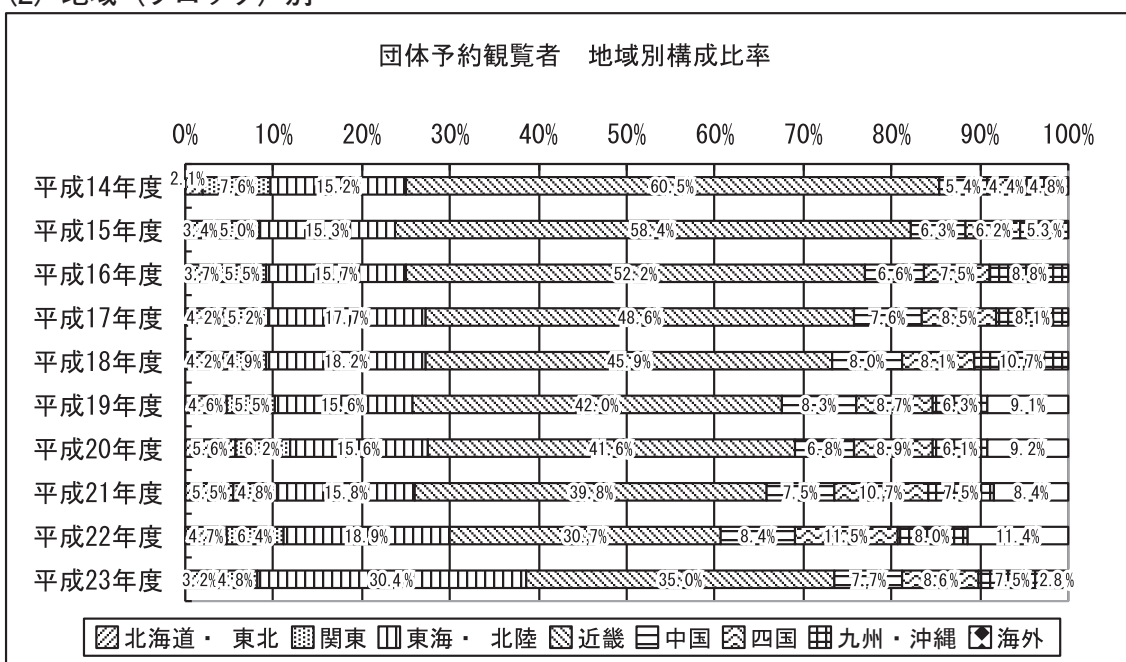
(単位: 人)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
県内	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	37,757
構成比	36.0%	32.3%	26.8%	24.4%	24.5%	25.7%	29.5%	21.4%	13.8%	15.7%
県外	94,405	214,333	244,502	253,728	238,815	210,165	174,483	100,780	127,985	203,353
構成比	64.0%	67.7%	73.2%	75.6%	75.5%	74.3%	70.5%	78.6%	86.2%	84.3%
合計	147,515	316,757	333,833	335,567	316,352	282,805	247,389	128,147	148,515	241,110
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・平成23年度は、「県内」・「県外」別では、「県外」が84.3%で、前年度と同様に80%を超えている。



(2) 地域（ブロック）別



(上段：人数)

(下段：構成比率)

	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
平成14年度	3,139 2.1%	11,153 7.6%	22,462 15.2%	89,275 60.5%	7,970 5.4%	6,477 4.4%	7,039 4.8%	—	147,515 100.0%
平成15年度	10,917 3.4%	15,740 5.0%	48,530 15.3%	184,974 58.4%	20,017 6.3%	19,741 6.2%	16,838 5.3%	—	316,757 100.0%
平成16年度	12,185 3.7%	18,322 5.5%	52,312 15.7%	174,333 52.2%	22,175 6.6%	25,196 7.5%	29,310 8.8%	—	333,833 100.0%
平成17年度	13,949 4.2%	17,551 5.2%	59,368 17.7%	163,183 48.6%	25,597 7.6%	28,617 8.5%	27,302 8.1%	—	335,567 100.0%
平成18年度	13,350 4.2%	15,406 4.9%	57,608 18.2%	145,237 45.9%	25,403 8.0%	25,625 8.1%	33,723 10.7%	—	316,352 100.0%
平成19年度	12,895 4.6%	15,568 5.5%	44,059 15.6%	118,946 42.1%	23,422 8.3%	24,536 8.7%	17,768 6.3%	25,611 9.1%	282,805 100.0%
平成20年度	13,906 5.6%	15,332 6.2%	38,636 15.6%	102,705 41.5%	16,464 6.7%	21,982 8.9%	15,042 6.1%	22,823 9.2%	247,389 100.0%
平成21年度	7,030 5.5%	6,097 4.8%	20,185 15.8%	51,184 39.9%	9,576 7.5%	13,774 10.7%	9,581 7.5%	10,720 8.4%	128,147 100.0%
平成22年度	6,951 4.7%	9,475 6.4%	28,019 18.9%	45,590 30.7%	12,493 8.4%	17,150 11.5%	11,854 8.0%	16,983 11.4%	148,515 100.0%
平成23年度	7,780 3.2%	11,661 4.8%	73,382 30.4%	84,186 34.9%	18,452 7.7%	20,838 8.6%	18,068 7.5%	6,743 2.8%	241,110 100.0%

・平成23年度は、地域（ブロック）別では、「近畿」が84,186人、構成比34.9%で最も多いが、長期的に見ると減少傾向にある。特に「東海・北陸」が73,382人（構成比30.4%）で、前年度28,019人（構成比18.9%）の2.6倍（構成比11.5ポイント増）と大幅に伸びている。これは、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。

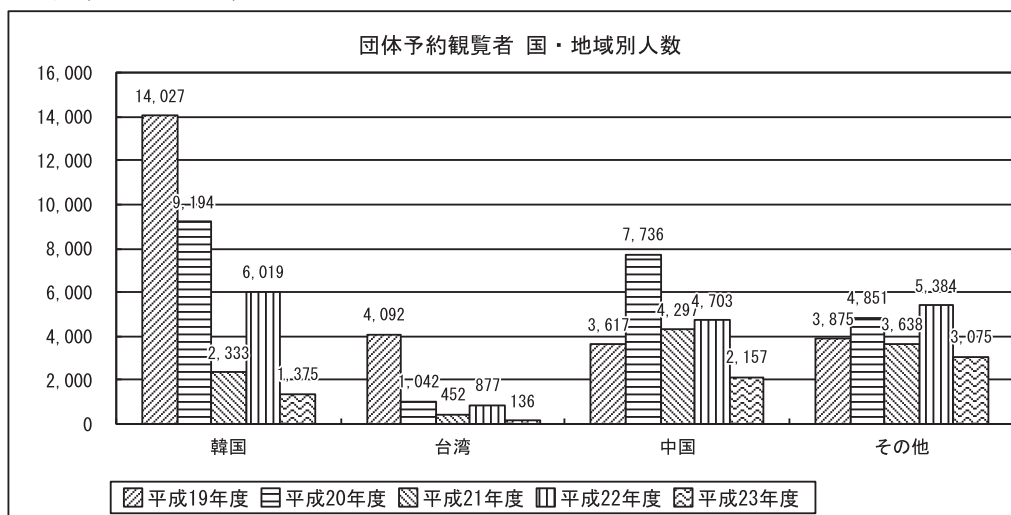
(3) 都道府県別

(単位：人)

ランキング	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	兵庫県 53,110	兵庫県 102,424	兵庫県 89,331	兵庫県 81,839	兵庫県 77,537	兵庫県 72,640	兵庫県 72,906	兵庫県 27,367	兵庫県 20,530	兵庫県 40,934
2	大阪府 19,918	大阪府 37,164	大阪府 38,219	大阪府 38,223	大阪府 28,549	海外 25,611	海外 22,823	大阪府 11,011	海外 16,983	愛知県 38,063
3	愛知県 7,367	愛知県 16,458	愛知県 17,441	愛知県 22,818	愛知県 21,334	大阪府 21,861	大阪府 22,600	海外 10,720	大阪府 10,829	大阪府 26,186
4	京都府 4,859	和歌山県 12,988	和歌山県 14,600	和歌山県 14,190	和歌山県 10,850	愛知県 15,526	愛知県 14,849	愛知県 7,324	愛知県 9,712	三重県 14,815
5	滋賀県 4,856	滋賀県 12,922	京都府 11,871	京都府 11,388	京都府 10,817	京都府 9,106	和歌山県 7,718	香川県 4,331	香川県 5,816	岐阜県 9,988
6	和歌山県 3,753	京都府 10,303	滋賀県 10,548	岡山県 10,144	岡山県 9,837	岡山県 8,739	岡山県 7,229	和歌山県 3,813	三重県 4,821	岡山県 7,829
7	岐阜県 3,718	三重県 9,259	岡山県 9,836	奈良県 8,922	三重県 9,557	和歌山県 8,512	京都府 6,996	愛媛県 3,807	和歌山県 4,477	香川県 7,558
8	岡山県 3,363	奈良県 9,173	奈良県 9,764	高知県 8,748	滋賀県 8,757	愛媛県 7,579	香川県 6,553	京都府 3,664	高知県 4,357	京都府 6,952
9	三重県 3,345	岡山県 7,820	高知県 8,920	三重県 8,634	岐阜県 7,504	三重県 6,844	愛媛県 6,352	三重県 3,609	京都府 4,323	海外 6,743
10	東京都 3,066	高知県 7,818	三重県 8,110	滋賀県 8,621	高知県 7,370	熊本県 6,646	岐阜県 5,556	岡山県 3,479	福岡県 4,181	和歌山県 6,137

・平成23年度は、都道府県別では、「兵庫県」が40,934人で第1位であるが、長期的に見ると減少傾向にある。対前年度伸び率は、愛知県3.9倍、三重県3.1倍、岐阜県2.8倍、大阪府2.4倍、兵庫県2.0倍となっている。

(4) 海外（国・地域別）

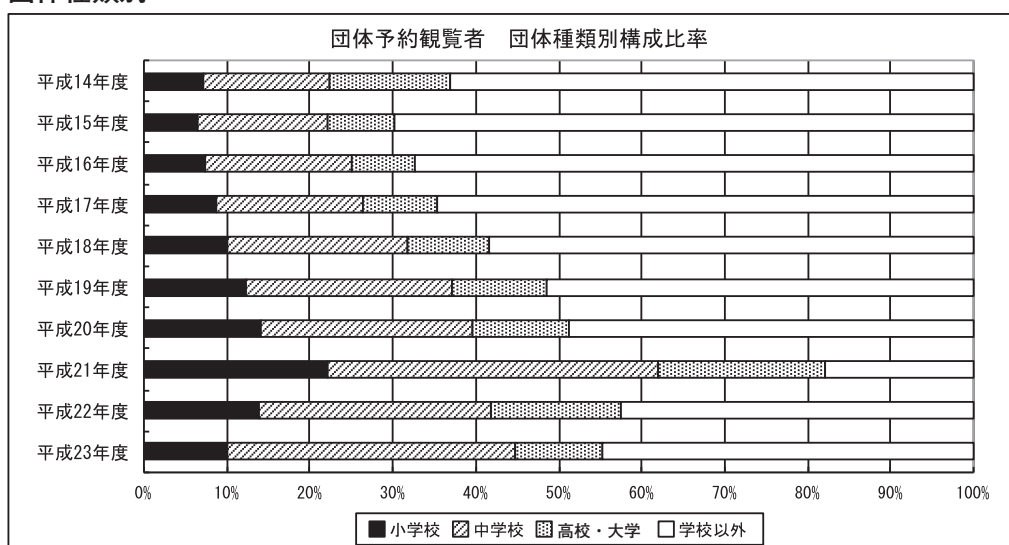


(単位：人)

	韓国	台湾	中国	その他	合計
平成19年度	14,027	4,092	3,617	3,875	25,611
平成20年度	9,194	1,042	7,736	4,851	22,823
平成21年度	2,333	452	4,297	3,638	10,720
平成22年度	6,019	877	4,703	5,384	16,983
平成23年度	1,375	136	2,157	3,075	6,743

・平成23年度の海外からの団体予約観覧者は6,743人で、東日本大震災や原発事故等の影響を強く受け、前年度16,983人に比べて39.7%にとどまった。

(5) 団体種類別

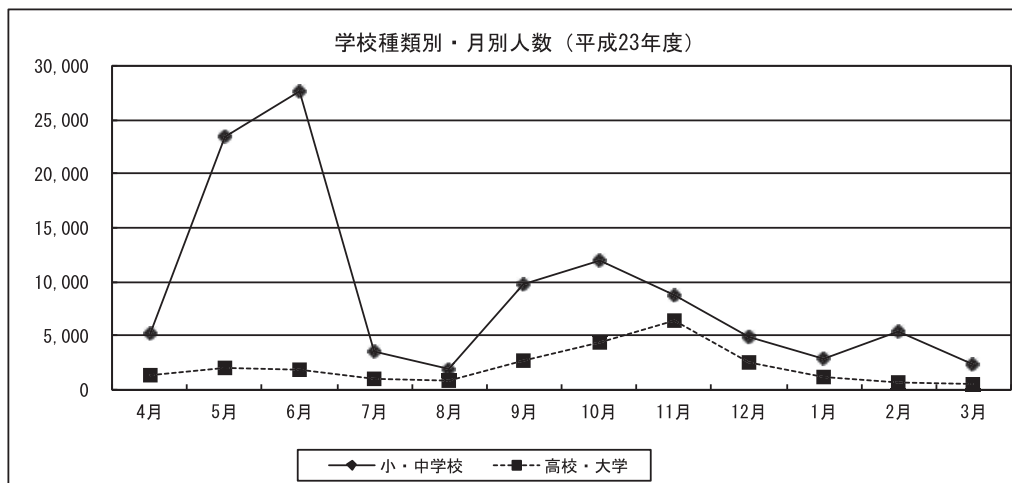


(上段：人数)

(下段：構成比率)

	学 校				学校以外	合計
		小学校	中学校	高校・大学		
平成14年度	53,578 36.3%	10,312 7.0%	22,243 15.1%	21,023 14.3%	93,937 63.7%	147,515 100.0%
平成15年度	95,941 30.3%	20,597 6.5%	49,552 15.6%	25,792 8.1%	220,816 69.7%	316,757 100.0%
平成16年度	109,135 32.7%	24,629 7.4%	59,158 17.7%	25,348 7.6%	224,698 67.3%	333,833 100.0%
平成17年度	118,509 35.3%	29,064 8.7%	59,704 17.8%	29,741 8.9%	217,058 64.7%	335,567 100.0%
平成18年度	131,385 41.5%	32,005 10.1%	68,777 21.7%	30,603 9.7%	184,967 58.5%	316,352 100.0%
平成19年度	137,061 48.5%	34,923 12.3%	70,257 24.8%	31,881 11.3%	145,744 51.5%	282,805 100.0%
平成20年度	126,544 51.2%	34,893 14.1%	62,795 25.4%	28,856 11.7%	120,845 48.8%	247,389 100.0%

平成21年度	105,097 82.0%	28,512 22.2%	50,900 39.7%	25,685 20.0%	23,050 18.0%	128,147 100.0%
平成22年度	85,538 57.6%	20,752 14.0%	41,518 28.0%	23,268 15.7%	62,977 42.4%	148,515 100.0%
平成23年度	133,068 55.2%	24,157 10.0%	83,562 34.7%	25,349 10.5%	108,042 44.8%	241,110 100.0%



（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小・中学校	5,295	23,499	27,606	3,460	1,929	9,743	11,927	8,795	4,959	2,816	5,316	2,374	107,719
高校・大学	1,317	2,053	1,825	1,003	775	2,673	4,380	6,332	2,592	1,219	646	534	25,349
合 計	6,612	25,552	29,431	4,463	2,704	12,416	16,307	15,127	7,551	4,035	5,962	2,908	133,068

- ・平成23年度は、団体種別では、「学校」が55.2%で、半数以上を占めている。
- ・「学校」の中では「中学校」の比率が高く、月別では特に5月、6月が多くなっている。

5 来館者アンケートの概要

来館者の属性、来館動機、施設の評価等を把握するため、アンケート調査を実施した。
調査結果の概要は次のとおり。

項 目	内 容
調査対象及び方法	・ 一般来館者 ・ 調査票を手渡し自記入（西館「総合案内」等にて配布） ・ 回収箱、郵送により回収
実施時期	・ 平成23年12月1日（木）～平成24年2月19日（日）
回答状況	・ 回答数 630 件 ・ 無効数 6 件 ・ 有効回答数 624 件 （有効回答率：99%）

(1) 回答者の属性

①年代別

	標本数	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	624	158	51	61	87	61	44	25	137
比率 (%)	100.0	25.3	8.2	9.8	13.9	9.8	7.1	4.0	22.0

②性別

	標本数	男性	女性	無回答
回答数	624	241	204	179
比率 (%)	100.0	38.6	32.7	28.7

③住所地別

	標本数	神戸市内	兵庫県内	大阪市内	その他	無回答
回答数	624	63	98	31	246	186
比率 (%)	100.0	10.1	15.7	5.0	39.4	29.8

④職業等別

	標本数	小学生	中学生	高校生	大学生・専門学校生	自営業	会社員 (役員含む)	学校教員
回答数	624	60	59	30	9	19	80	64
比率 (%)	100.0	9.6	9.5	4.8	1.4	3.0	12.8	10.3
		公務員 (教員以外)		地域団体	専業主婦	無職	その他	無回答
		27		28	31	30	14	173
		4.3		4.5	5.0	4.8	2.2	27.7

(2) 来館行動

①同伴者 (1つ選択)

	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
回答数	624	62	82	43	263	13	161
比率 (%)	100.0	9.9	13.1	6.9	42.1	2.1	25.8
・年代別							
10代	158	6	20	15	99	2	16
	100.0	3.8	12.7	9.5	62.7	1.3	10.1
20代・30代	112	19	22	15	48	2	6
	100.0	17.0	19.6	13.4	42.9	1.8	5.4
40代・50代	148	26	31	8	75	5	3
	100.0	17.6	20.9	5.4	50.7	3.4	2.0
60代・70歳以上	69	11	7	5	37	3	6
	100.0	15.9	10.1	7.2	53.6	4.3	8.7
無回答	137	0	2	0	4	1	130
	100.0	0.0	1.5	0.0	2.9	0.7	94.9
・性別							
男性	241	43	31	22	127	4	14
	100.0	17.8	12.9	9.1	52.7	1.7	5.8
女性	204	15	46	16	116	6	5
	100.0	7.4	22.5	7.8	56.9	2.9	2.5
無回答	179	4	5	5	20	3	142
	100.0	2.2	2.8	2.8	11.2	1.7	79.3
・住所地別							
神戸市内	63	11	18	7	21	1	5
	100.0	17.5	28.6	11.1	33.3	1.6	7.9
兵庫県内	98	7	20	7	57	1	6
	100.0	7.1	20.4	7.1	58.2	1.0	6.1
近畿圏内	80	11	9	6	50	3	1
	100.0	13.8	11.3	7.5	62.5	3.8	1.3
その他の地域	197	30	32	18	110	4	3
	100.0	15.2	16.2	9.1	55.8	2.0	1.5
無回答	186	3	3	5	25	4	146
	100.0	1.6	1.6	2.7	13.4	2.2	78.5

・職業等別							
学生	158 100.0	6 3.8	22 13.9	19 12.0	103 65.2	4 2.5	4 2.5
民間就業者	99 100.0	21 21.2	20 20.2	8 8.1	44 44.4	4 4.0	2 2.0
学校教員	64 100.0	9 14.1	9 14.1	1 1.6	44 68.8	0 0.0	1 1.6
公務員（教員以外）	27 100.0	5 18.5	5 18.5	5 18.5	10 37.0	0 0.0	2 7.4
地域団体等	59 100.0	8 13.6	13 22.0	2 3.4	35 59.3	0 0.0	1 1.7
無職・その他	44 100.0	11 25.0	8 18.2	5 11.4	15 34.1	3 6.8	2 4.5
無回答	173 100.0	2 1.2	5 2.9	3 1.7	12 6.9	2 1.2	149 86.1

全体：「団体で」の来館者が最も多く、次いで「家族と」の来館者が多かった。

年代別：全世代において「団体で」の来館者が最も多かった。

性別：男女ともに「団体で」の来館者が最も多かった。男性は「団体で」に次いで「ひとりで」が多かったが、女性は「団体で」に次いで「家族と」が多かった。

住所地別：全地域において、「団体で」の来館者が最も多かった。「近畿圏内」は、「団体で」に次いで「ひとりで」が多かったが、それ以外の地域については、「団体で」に次いで「家族と」が多かった。

職業等別：職業に関わらず、「団体で」の来館者が最も多かった。

②観覧予約をしたかどうか（「団体で」と回答した者：1つ選択）

	標本数	はい	いいえ	無回答
回答数	263	170	47	46
比率（%）	100.0	64.6	17.9	17.5

「団体で」の来館者に、「観覧予約をしたかどうか」を質問したところ、半数以上が観覧予約をしたと回答した。

③来館回数（1つ選択）

	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	10回目	無回答	平均
回答数	624	307	61	18	6	8	1	1	1	5	216	1.51
比率（%）	100.0	49.2	9.8	2.9	1.0	1.3	0.2	0.2	0.2	0.8	34.6	

例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

④交通手段（複数選択）

	標本数	車	タクシー	バス	JR	阪神電車	阪急電車	徒歩	その他	無回答
回答数	624	68	12	204	62	62	26	47	26	182
比率（%）	100.0	9.9	1.7	29.6	9.0	9.0	3.8	6.8	3.8	26.4
・住所地別										
神戸市内	63	10 13.7	1 1.4	12 16.4	10 13.7	13 17.8	1 1.4	11 15.1	9 12.3	6 8.2
兵庫県内	98	22 19.0	1 0.9	33 28.4	8 6.9	13 11.2	13 11.2	14 12.1	2 1.7	10 8.6
近畿圏内	80	11 12.5	2 2.3	31 35.2	11 12.5	15 17.0	4 4.5	5 5.7	4 4.5	5 5.7
その他の地域	197	20 9.0	8 3.6	106 48.0	31 14.0	16 7.2	5 2.3	15 6.8	9 4.1	11 5.0
無回答	186	5 2.6	0 0.0	22 11.5	2 1.0	5 2.6	3 1.6	2 1.0	2 1.0	150 78.5

例年同様、「バス」での来館が最も多かった。

⑤認知手段（複数選択）

	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講演会	ホームページ	ポスター・ちらし	学校・先生からの紹介	友人・知人・家族からの紹介（口コミ）	旅行代理店	各種団体から	その他	無回答
回答数	624	36	14	25	26	80	26	80	83	42	46	56	204
比率（％）	100.0	5.0	1.9	3.5	3.6	11.1	3.6	11.1	11.6	5.8	6.4	7.8	28.4
・年代別													
10代	158	14 7.3	4 2.1	5 2.6	2 1.0	14 7.3	6 3.1	46 23.8	22 11.4	7 3.6	16 8.3	25 13.0	32 16.6
20代・30代	112	3 2.3	5 3.9	1 0.8	4 3.1	21 16.4	7 5.5	18 14.1	22 17.2	13 10.2	7 5.5	13 10.2	14 10.9
40代・50代	148	7 4.1	4 2.4	10 5.9	8 4.7	41 24.1	6 3.5	9 5.3	26 15.3	18 10.6	13 7.6	12 7.1	16 9.4
60代・70歳以上	69	11 12.5	1 1.1	7 8.0	12 13.6	2 2.3	7 8.0	1 1.1	12 13.6	4 4.5	10 11.4	6 6.8	15 17.0
無回答	137	1 0.7	0 0.0	2 1.4	0 0.0	2 1.4	0 0.0	6 4.3	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	127 91.4
・住所地別													
神戸市内	63	9 10.7	1 1.2	4 4.8	3 3.6	6 7.1	6 7.1	12 14.3	11 13.1	0 0.0	4 4.8	16 19.0	12 14.3
兵庫県内	98	8 6.7	1 0.8	5 4.2	8 6.7	13 10.8	3 2.5	28 23.3	20 16.7	1 0.8	12 10.0	10 8.3	11 9.2
近畿圏内	80	6 5.7	2 1.9	9 8.5	5 4.7	19 17.9	6 5.7	7 6.6	14 13.2	8 7.5	13 12.3	7 6.6	10 9.4
その他の地域	197	4 1.9	9 4.3	3 1.4	8 3.8	38 18.3	9 4.3	20 9.6	31 14.9	30 14.4	11 5.3	19 9.1	26 12.5
無回答	186	9 4.5	1 0.5	4 2.0	2 1.0	4 2.0	2 1.0	13 6.5	7 3.5	3 1.5	6 3.0	4 2.0	145 72.5
・職業等別													
学生	158	12 6.5	3 1.6	3 1.6	1 0.5	14 7.6	6 3.2	50 27.0	24 13.0	7 3.8	15 8.1	26 14.1	24 13.0
民間就業者	99	9 7.8	3 2.6	8 7.0	8 7.0	22 19.1	2 1.7	1 0.9	22 19.1	10 8.7	6 5.2	12 10.4	12 10.4
学校教員	64	2 2.6	2 2.6	2 2.6	3 3.8	20 25.6	4 5.1	16 20.5	6 7.7	9 11.5	3 3.8	5 6.4	6 7.7
公務員（教員以外）	27	1 2.9	2 5.7	3 8.6	1 2.9	6 17.1	3 8.6	1 2.9	6 17.1	1 2.9	3 8.6	2 5.7	6 17.1
地域団体等	59	3 4.7	2 3.1	3 4.7	2 3.1	8 12.5	4 6.3	1 1.6	11 17.2	8 12.5	12 18.8	4 6.3	6 9.4
無職・その他	44	5 8.6	1 1.7	4 6.9	7 12.1	4 6.9	5 8.6	3 5.2	10 17.2	5 8.6	4 6.9	5 8.6	5 8.6
無回答	173	4 2.2	1 0.5	2 1.1	4 2.2	6 3.3	2 1.1	8 4.4	4 2.2	2 1.1	3 1.6	2 1.1	145 79.2

全体：「友人・知人・家族からの紹介」で知ったという回答が最も多く、次いで「ホームページ」「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が多かった。

年代別：「10代」では「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多く、「20代・30代」と「60代・70歳以上」では「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」（「60代・70歳以上」ではそれに加えて「講演会」）で知ったという回答が最も多く、「40代・50代」では「ホームページ」で知ったという回答が最も多かった。

住所地別：「神戸市内」「兵庫県内」からの来館者については「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多かったが、その他の来館者は「ホームページ」で知ったという回答が最も多かった。全地域において、次いで多かったのが「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答であった。

職業等別：「学生」は「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多かった。「民間就業者」と「公務員（教員以外）」は「ホームページ」と「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が最も多く、「学校教員」は「ホームページ」で知ったという回答が最も多かった。

⑥来館動機（複数選択）

	標本数	阪神・淡路大震災の状況を知りたくて	防災に関する情報を知りたくて	語り部による被災体験を聞きたくて	研究員による防災セミナーに興味があって	知人・友人に勧められて	団体旅行に組み込まれていたため	学校行事で	会社・団体の行事で	東日本大震災をきっかけに	その他	無回答
回答数 比率（％）	624 100.0	236 24.6	135 14.1	47 4.9	15 1.6	40 4.2	37 3.9	58 6.1	52 5.4	104 10.9	30 3.1	204 21.3
・年代別												
10代	158	64 25.1	25 9.8	16 6.3	5 2.0	18 7.1	16 6.3	26 10.2	15 5.9	26 10.2	9 3.5	35 13.7
20代・30代	112	58 29.9	39 20.1	5 2.6	2 1.0	6 3.1	2 1.0	13 6.7	15 7.7	29 14.9	13 6.7	12 6.2
40代・50代	148	79 30.2	51 19.5	19 7.3	5 1.9	8 3.1	14 5.3	16 6.1	13 5.0	35 13.4	8 3.1	14 5.3
60代・70歳以上	69	31 28.7	19 17.6	4 3.7	3 2.8	6 5.6	5 4.6	3 2.8	8 7.4	14 13.0	0 0.0	15 13.9
無回答	137	4 2.9	1 0.7	3 2.2	0 0.0	2 1.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	128 92.1
・住所地別												
神戸市内	63	34 30.9	23 20.9	5 4.5	2 1.8	9 8.2	1 0.9	7 6.4	2 1.8	12 10.9	5 4.5	10 9.1
兵庫県内	98	44 25.7	28 16.4	10 5.8	4 2.3	6 3.5	7 4.1	18 10.5	10 5.8	22 12.9	8 4.7	14 8.2
近畿圏内	80	39 28.1	25 18.0	7 5.0	2 1.4	5 3.6	7 5.0	6 4.3	15 10.8	18 12.9	8 5.8	7 5.0
その他の地域	197	97 29.4	53 16.1	17 5.2	4 1.2	13 3.9	20 6.1	23 7.0	22 6.7	45 13.6	9 2.7	27 8.2
無回答	186	22 10.6	6 2.9	8 3.8	3 1.4	7 3.4	2 1.0	4 1.9	3 1.4	7 3.4	0 0.0	146 70.2
・職業等別												
学生	158	71 27.4	28 10.8	15 5.8	4 1.5	17 6.6	16 6.2	29 11.2	14 5.4	29 11.2	9 3.5	27 10.4
民間就業者	99	49 30.4	29 18.0	7 4.3	3 1.9	6 3.7	5 3.1	3 1.9	16 9.9	24 14.9	5 3.1	14 8.7
学校教員	64	40 30.1	28 21.1	10 7.5	2 1.5	1 0.8	4 3.0	21 15.8	3 2.3	16 12.0	3 2.3	5 3.8
公務員(教員以外)	27	15 34.1	12 27.3	3 6.8	0 0.0	1 2.3	3 6.8	0 0.0	2 4.5	3 6.8	2 4.5	3 6.8
地域団体等	59	27 26.5	19 18.6	3 2.9	3 2.9	5 4.9	6 5.9	1 1.0	10 9.8	15 14.7	9 8.8	4 3.9
無職・その他	44	23 29.9	15 19.5	4 5.2	1 1.3	6 7.8	2 2.6	3 3.9	2 2.6	14 18.2	1 1.3	6 7.8
無回答	173	11 6.0	4 2.2	5 2.7	2 1.1	4 2.2	1 0.5	1 0.5	5 2.7	3 1.6	1 0.5	145 79.7

全体：「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」の順に多かった。

年代別：全世代において、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。次いで「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」が上位を占めた。

住所地別：全地域において、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」、「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」の順に上位を占めた。

職業等別：職業にかかわらず、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。次いで「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」が上位を占めた。

「その他」の回答（主なもの）

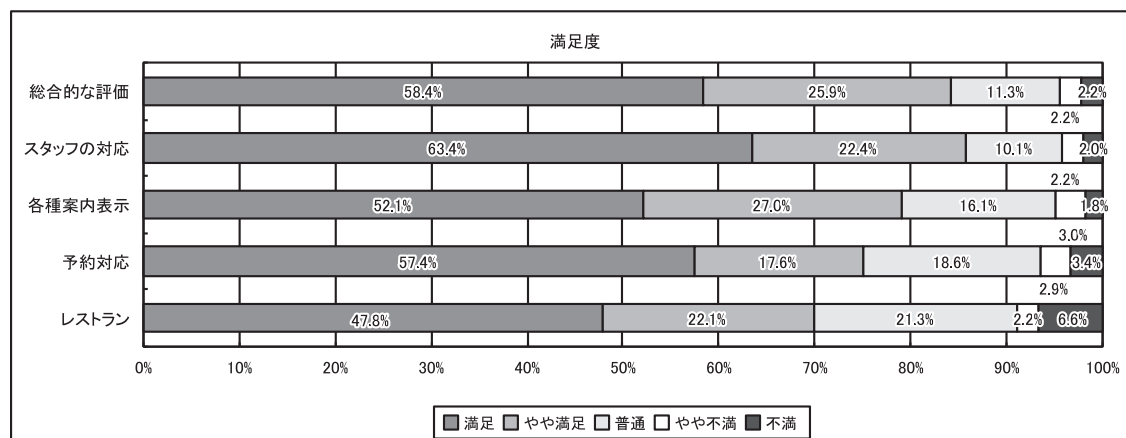
- ・授業で使うため
- ・地震対応
- ・教材研究
- ・自分の市（まち）で活かしたい
- ・職場の研修
- ・ボランティア講座の一環として
- ・東日本大震災を実際に経験したから
- ・被災者として見ておきたい
- ・実体験からふり返って
- ・子供に見せたくて
- ・旅行
- ・（小・中学生は）無料だから

(3) 満足度（1つ選択）

	有効標本数	満足している	やや満足している	どちらとも いえない	あまり 満足していない	満足していない	無回答
総合評価	452	264	117	51	10	10	172
	100.0	58.4	25.9	11.3	2.2	2.2	-
館内案内スタッフ	456	289	102	46	10	9	168
	100.0	63.4	22.4	10.1	2.2	2.0	-
各種案内表示	434	226	117	70	13	8	190
	100.0	52.1	27.0	16.1	3.0	1.8	-
予約対応	204	117	36	38	6	7	420
	100.0	57.4	17.6	18.6	2.9	3.4	-
レストラン	136	65	30	29	3	9	488
	100.0	47.8	22.1	21.3	2.2	6.6	-

総合評価では、「満足」、「やや満足」を合わせると8割を超えている。

項目別でも、「満足」と「やや満足」が、概ね7割以上となっている。

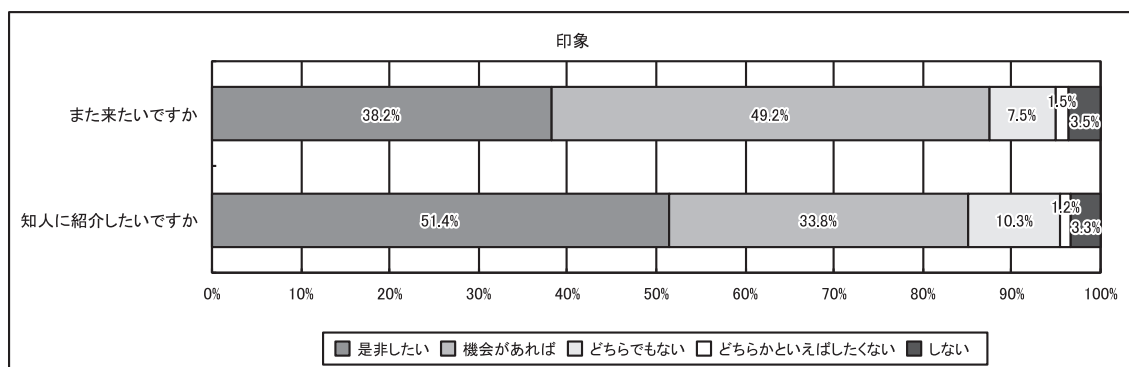


(4) 印象（1つ選択）

	有効標本数	是非したい	機会があれば	どちらでもない	どちらかといえ ばしたくない	しない	無回答
また来たいですか	455	174	224	34	7	16	169
	100.0	38.2	49.2	7.5	1.5	3.5	-
知人に紹介したいですか	426	219	144	44	5	14	198
	100.0	51.4	33.8	10.3	1.2	3.3	-

当センターの再訪について、「是非来たい」「機会があれば来たい」を合わせると8割を超えている。

知人への紹介についても、同様となっている。



I 章 展示

2 節 常設展示施設の概要

1 項 西館（旧防災未来館）

エントランス、ロビーのほか、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える「震災追体験フロア」（4階）、「震災の記憶フロア」（3階）及び地震災害を中心に防災・減災について学ぶ「防災・減災体験フロア」（2階）を配置している。

【主な経緯】

○平成 14 年 4 月 27 日一般公開開始

○平成 19 年度

開館後の時間経過に伴う復興過程の新たな情報を追記するとともに、来館者に震災の情報等をより分かりやすく伝える観点から、西館全体にわたり展示改修を検討、実施。

・平成 19 年 10 月 30 日 資料室を 2 階から 5 階に移転

・平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン

【平成 23 年度の主な展示改修】

①タッチパネル方式の津波ハザードマップを拡充（2 階）。

・兵庫県、大阪府、和歌山県及び高知県のデータに加えて、新たに徳島県の暫定津波浸水予測図（最大津波モデル）を追加表示。

・兵庫県、大阪府について、それぞれ従来の予測に加え、2 倍の津波高による浸水影響範囲（暫定予測）を追加表示。

・新たに、東日本大震災の津波浸水域（岩手県、宮城県、福島県）を表示。

②マグニチュードの展示について、東日本大震災の発生を受けて「M9」の表示を追加（2 階）。

1 エントランス：1 階

（1）センター紹介ガイダンス（平成 19 年度リニューアル）

来館者が効果的に学べるように、センターの設立趣旨や展示のねらいについて、センター長（映像）による事前ガイダンスを実施している。

（2）東海・東南海・南海地震による津波の記録

来館者が、東南海・南海地震による津波の被害について、より実感をもって理解し、また、災害に対する備えへの意識を高めることができるように、これまでの南海地震、東南海地震による津波の記録と、今後発生した場合に想定される最大の津波高について、懸垂幕に表示して展示している（平成 21 年 4 月 28 日設置）。

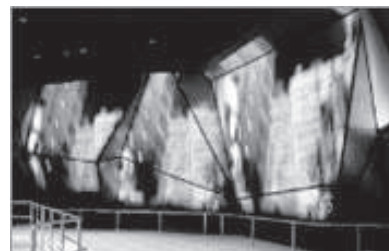
2 震災追体験フロア：4 階

（1）震災以前のまち（1.17 シアター前室）（平成 19 年度リニューアル）

震災以前の神戸のまち並みの切り絵を展示し、照明と音響の演出により来館者を震災前夜にタイムスリップさせ、次の1.17シアターから始まる震災追体験に効果的につなげる空間を創出している。

(2) 1.17シアター（「5：46の衝撃」）

平成7（1995）年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。その瞬間、阪神・淡路の各地域で何が起こったのかを、特殊撮影やコンピューターグラフィックの映像により、崩壊していくビル、家屋、高速道路、鉄道などの様子を再現している。また、破壊され燃え上がる街の様子を、不定形多面体スクリーンの映像や立体音響システムなどにより、臨場感高く表現している。



①映像モチーフ

高度に機能集積した近代都市の脆弱性を明らかにするため、都市基盤崩壊の様相を特徴的に示すモチーフを、映像イメージ、阪神・淡路地区の都市構造・建築・土木構造の分析、被害の概要の視点から選定している。

被害分類	映像構成モチーフ	映像イメージ
住宅地	淡路島北淡町住宅群	激しく揺れる木造の住宅群が将棋倒しになる情景 タンスが倒れ天井が崩落する住宅の中を住民の視点で見たカット
商店街	神戸市内商店街	崩れる看板、倒れる自動販売機、 がれき瓦礫と化す商店、商品が崩れ乱れ飛ぶ商店内のカット
都市部	神戸市内高層ビル 神戸市内病院 明石市立天文科学館 港湾の被害	大きく揺れるビル街、オフィスの窓ガラスが飛び散り壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉じん、中層階の崩壊する病院、5：46を指したまま止まる時計
交通機関	私鉄電車	金属のきしみとともに正面の波打つ線路 脱線転覆する電車、崩れる高架
	私鉄駅舎	電車が駅舎にめり込み重い衝撃が広がり陥没崩壊する駅舎
	阪神高速道路3号神戸線	うねり始める道路、車がハンドルを取られて蛇行する様子を車を運転する人の視点で見たカット 橋柱に亀裂、折れる橋柱、横倒しになる高速道路
地震火災	神戸市内住宅街	火災発生の状況

②収容人員 約 150 人

③上映時間 約 7 分

(3) 震災直後のまち

強烈な地震動により破壊された極限状態のまちをジオラマ模型で再現し、破壊状況に茫然自失^{ぼう}となった被災者と同じ状況を体感する。



区 分	イメージ
壊れた医院	建物が傾き今にも倒壊しそうな医院。天井から落下しそうなベッド。天井の床が抜け落ち壁が崩壊
階下が押し潰された鉄筋コンクリートのマンション	夫婦の布団、ベビーベッド、倒れた家具。散乱する台所用品、潰れた階層では家具調度品が押し潰されている
壊れた木造家屋	1 階部分が押し潰されて下敷きになった車と 2 階和室に散乱する家具、生活用品
焼け落ちた市場のアーケード	焼け焦げたアーケードの向こうには、焼け落ちた波トタンや鉄骨、木材等の瓦礫。さらには、その奥に焦土と化した街の遠景写真が広がる
垂れ下がる線路	倒れこむ高架橋、その上には不安定にねじ曲がった線路が宙に浮いている

(4) 大震災ホール（「このまちと生きる」・平成 19 年度リニューアル）

地震発生から復旧・復興していくまちの人々の姿の報道実写資料を編集した映像に合わせて、多くの被災者が感じたであろう気持ちや、復興過程の光と影の両面からの事実、教訓について、1 人の女性がモノローグにより被災地からのメッセージとして語っていく。



①収容人員 150 人（椅子席）

②上映時間 約 15 分

③字幕表示

聴覚障害者のためにスクリーン下部に、映像に合わせてナレーションなどを字幕表示している。

④発光ダイオード（LED）字幕表示システム

スクリーン右横に取り付けた表示板の電光文字により、映像内容についての事前説明を表示している。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会 335 複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成 18 年 1 月 16 日設置）

⑤その他 同時通訳器 110 台（英語・中国語・韓国語）

3 震災の記憶フロア：3階

(1) 被災の状況（平成 19 年度リニューアル）

大型マップと被災地の実写映像とのシンクロにより震度分布や火災等の被災状況の広がりを視覚的に伝えている。

(2) まちの変化（定点観測）

同じ場所の被災時と現在を映像で対比し、復興の姿を伝えている。

〈定点観測地点〉

ア 神戸市・三宮 イ 六甲道 ウ 神戸港 エ 大正筋商店街
オ 仁川・百合野町 カ 明石海峡大橋 キ 生田神社 ク 阪神高速道路

(3) 震災オリエンテーション

①復興への道（平成 19 年度リニューアル）

震災直後から現在までの復興過程を 5 つのシーンにわけ、それぞれの時期における人の暮らしとまちなみの象徴的なシーンをジオラマで表現するとともに、体験談映像と運営ボランティアによる解説を加え、復興の全体像をわかりやすく伝えている。



＜5 つのシーン＞

時期	テーマ	まちなみの ジオラマ	人の暮らしの ジオラマ
震災直後	つぶれた家の中から見た被災地「生と死のあいだで」	破壊したまち	倒壊した家屋
2 週間後	緊急避難と今後の不安「避難所のつらさとあたたかさ」	ブルーシートのまち	避難所での共同生活
3～6 か月後	再建への第一歩「それぞれの再建への動き」	復旧を急ぐまち	仮設住宅の新たな生活
1～3 年後	復旧と再建の狭間で「まちづくりの理想と現実」	再建が進むまち	それぞれの住宅再建
10 年以降	継承することの意味、難しさ「活動し続ける被災地」	復興したまち	ふれあいのある暮らし

②震災の復興過程における課題・震災復興年表（平成 19 年度リニューアル）

復興過程の主な課題をフェーズ・分野ごとに整理した震災の復興過程における課題と震災復興年表を展示している。

(4) 震災からの復興をたどる「震災学習テーブル」

震災直後からの復興過程における事象や震災の教訓等について、4 つのテーマからなる震災学習テーブルに、各テーマに係る映像、実物資料、グラフィック等を展示している。

（4 か国語対応）

<4つのテーマ>

①生と死のあいだで

いのちを守る、生と死の岐路、生きていくために、広がる不安、二次災害

②復旧の苦しみ

避難所の暮らし、復旧への道、仮設住宅、助け合い・ボランティア

③まちとところの復興

生活・福祉復興、産業復興、住宅復興、文化復興

④震災から生まれたもの

提言、災害に備える、ボランティア・NPO、伝えたいこと、震災を忘れない

(5) 震災の記憶をのこす「記憶の壁」

市民の協力により収集された震災関連資料を資料提供者の体験談とともに展示している。

展示資料は、実物（立体物）、写真、手記等であり、紙資料を被災環境の変化にそって壁部分に展示、また、実物資料を壁前面に展示している。

(写真：約 500 点、手記：約 260 点、実物資料：約 70 点)

また、各壁面にそのテーマを端的に表す資料をピックアップした「スポット展示」を設置している。

①被災：鷹取商店街の看板

②避難・復旧：ふれあいセンターのベンチと鯉のぼり

③復興・語り継ぐ：子供たちの震災新聞

(6) 文字音声ガイド携帯端末「ハンディガイド」(平成 19 年度リニューアル)

「記憶の壁」の展示物にまつわる体験談を音声と文字で確認できる携帯端末を貸し出している。(4 か国語対応)

(7) 震災・復興メッセージ(平成 19 年度リニューアル)

ハンディガイドに収録している体験談をパソコン画面で、座ってゆったりと閲覧、検索することができる。

(8) 語り部コーナー

語り部が自らの震災体験を生で語るほか、震災に関わった人々(被災者、医療関係者、消防団員、県警機動隊員等 25 名、ユース震災語り部 27 名)がビデオで体験を伝える。

また、来館者が見学後の感想等を残すことができるメッセージボードを設置している。



4 防災・減災体験フロア：2階

(1) 災害の衝撃(ディザスターインパクト)(平成 19 年度リニューアル)

噴火、竜巻、ハリケーン、地震、津波の自然災害を実写映像により見せることで、自

然災害への脅威を訴え、自然災害への関心を高めるための2階展示の導入部として設置している。

(2) 災害情報ステーション

① ニュースボード（デジタル電子新聞）

被災地から芽生えた活動が、国内外の災害支援等に広がっていることを事例等により紹介している。

ア 被災地からの発信

イ 各種防災機関ニュース

ウ 災害調査レポート



② 未来へ向けた取り組み

震災を契機とした国内の災害に対する備えや動きをパネルで紹介している。

ア 阪神・淡路大震災を契機とした法整備及び改正

イ 防災体制への取り組み

ウ 防災研究への取り組み

エ 市民・企業の取り組み

(3) 災害検索テーブル「地域の危険度情報」

日本国内の災害危険度について、各防災機関のハザードマップのパソコン検索により、自分の地域の危険度や世界の巨大自然災害の発生状況を確認することができる。

(4) ハザードマップ（タッチパネル方式）

来館者自らが触って、確認できるタッチパネル方式によるハザードマップを配置している。

名 称	内 容
津波浸水ハザードマップ	地図と航空写真を活用した5府県（兵庫県、大阪府、和歌山県、高知県、徳島県）の津波浸水予測図
東日本大震災の津波浸水域表示マップ	東日本大震災による、岩手県、宮城県、福島県の津波浸水域を表示したマップ
河川洪水ハザードマップ および神戸市地震津波減災マップ	コンピューターグラフィックを活用し、高精細3Dデジタル地図、衛星写真などを組み合わせた県内主要6河川の洪水ハザードマップと、神戸市中央区と兵庫区の地震津波減災マップ（株式会社神戸製鋼所寄贈）

(5) 防災・減災ワークショップ

① 防災・減災を学ぶ（平成19年度リニューアル）

災害・防災に関する知識を小学生などにもわかり易く、実験やゲームで体験しながら学ぶことができる防災ワゴンや体験キット等がある。



＜防災ワゴン＞

名 称	内 容
自主防災を考える	防災カードで持ち出しリュックを作る
家庭防災を知る	部屋の模型にミニチュア家具を配置し、振動を与える
まちの防災を考える	仮想のまちイラストカードでハザードマップを作る
避難所を考える	小学校を避難所として完成させるパズル
震度の単位を知る	キャラクター人形により、地震のエネルギーの大きさを対比
震度を知る	震度別被害イラストカードによる震度階級カルタ
活断層を知る	活断層ジグソーパズル
活断層を調べる	反射実験鏡を使い、航空写真から活断層を確認する

＜体験キット＞

名 称	内 容
防災勝ち抜きゲーム	自然災害に対して自分たちが生き延びることを考えるゲーム
防災すごろく	防災・減災について学ぶすごろく
サバイバル・ファミリー	都市型災害にあった時、家族がどう対応するかを考えるゲーム
神経衰弱－非常持ち出し品合わせ	家庭の非常持ち出し品を考える神経衰弱ゲーム
防災カルタ	防災・減災の知識を学ぶいろはカルタ
紙芝居	防災・減災紙芝居『奈々ちゃんのひみつ』
防災グッズ体験	実際の防災グッズを自分で使ったり組み立てたりして体験

＜マグニチュードと地震のエネルギー＞

地震のエネルギーは、マグニチュードが1 増えると約 32 倍、マグニチュードが2 増えると約 1,000 倍になることを球の模型の大きさを説明している。

②最前線 防災ノウハウとグッズ

各家庭において、いざという時に備える「非常持ち出し品」や「防災グッズ」を紹介している。

③実験ステージ（平成 19 年度リニューアル）

運営ボランティアによる「耐震構造」、「液状化現象」、「家具転倒防止」、「木造耐震木組」の装置を使った実演や映像を活用し、防災・減災に役立つ解説を行っている。

（6）防災未来ギャラリー（平成 19 年度リニューアル）

最新の防災トピックスなどを紹介する企画展を開催している。

5 大型実物資料展示：西館南側（平成 19 年度リニューアル）

阪神高速道路の損傷橋脚の基部

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、西館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えている。

2 項 東館（旧ひと未来館）

3D映像を上映する「こころのシアター」（1階）のほか、地球温暖化等の環境変化に対応して、風水害に係る減災への取り組みについて考える「水と減災について学ぶフロア」（3階）を配置している。

なお、東日本大震災発生後は、特別展示として、同震災の関連展示（映像）も行っている。

【主な経緯】

○平成 15 年 4 月 26 日一般公開開始

○平成 21 年度

東館（旧ひと未来館）は、開館以降、癒しやコミュニケーションの空間を中心に、震災の教訓として「いのちの尊さ」、「共に生きることの大切さ」を伝えてきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、防災展示を充実させる方向で展示改修を検討、実施。

- ・平成 21 年 4 月 1 日 ひと未来館としての展示運営を休止
- ・平成 22 年 1 月 8 日 再オープン
 - ①新たに風水害を中心とした防災展示（映像）を整備
 - ②1階の「こころのシアター」は継続
 - ③3階に「グローバル・トレーニング・サイト」（無料の会議・研修等多目的スペース）を整備
 - ④防災未来館を「西館」、ひと未来館を「東館」と館の名称を変更

【平成 23 年度の主な展示改修】

- ①東館 1 階こころのシアターでは、東日本大震災被災地の 3D ドキュメンタリー映像「東日本大震災 津波の傷跡」を上映（夏休み防災未来学校の一環として開始。その後も「葉っぱのフレディ」と併用し、年間を通じて継続実施）。
- ②東館 3 階では、特別展示「東日本大震災とこれからの防災・減災」を実施し、東日本大震災の被害状況、復旧状況や東南海・南海地震への備えについて紹介。

1 こころのシアター：1 階

3D映像「葉っぱのフレディ」と「東日本大震災 津波の傷跡」を併用して上映している。

収容人員 150 人（椅子席）

（1）葉っぱのフレディ

世界的なベストセラー、レオ・ブースカーリア原作の「葉っぱのフレディ」をベースにした「いのちの旅」。大型立体ハイビジョン映像と風や振動、耳元でささやくような音響などが一体となった臨場感溢れるシアター。

一本のユリノキに生まれた葉っぱのフレディが、移り変わる四季の中で仲間達と様々な経験をし、「いのち」について物思う姿が、震災から再生した神戸の街の姿を交えて描かれる。いのちを慈(いつく)しむ心や生きる勇気を感じることができる。

①声の出演 齊藤由貴、小林薫

②上映時間 約13分

③発光ダイオード(LED)字幕表示システム

聴覚障害者のためにスクリーンの下に取り付けたもので、LED(発光ダイオード)の電光文字で、映像に合わせて登場人物のせりふなどを一度に最大16文字表示することができる。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。(平成18年1月16日設置)

④その他 同時通訳器50台(英語・中国語・韓国語)

(2) 東日本大震災 津波の傷跡

東日本大震災発生から約1ヵ月後、津波で被災した東北地方の太平洋沿岸各地を訪れ、ハイビジョン3Dで収録した記録映像を編集したドキュメンタリー作品。津波被災地のありのままの姿を伝える。

①制作 NHKメディアテクノロジー

②監督 智片通博

③ナレーション 湯浅真由美

④撮影地 陸前高田市、石巻市、東松島市、仙台平野(仙台市荒浜)、宮古市田老、南三陸町、気仙沼市ほか

⑤撮影期間 平成23年4月7日～13日

⑥上映時間 約16分

※平成24年5月より、震災から1ヵ月後の映像に、半年後及び1年後に収録した映像を加えて再編集した作品(震災1年の記録)を上映している。

2 水と減災について学ぶフロア：3階

(1) いのちの星の奇跡

真白い森の白フクロウが、さまざまな動物や植物を育む奇跡の星、宇宙に浮かぶ水の惑星―地球―について語る。水から生まれる命の躍動的な姿を、手影絵を通して表現している。

・宇宙に浮かぶ水の惑星

・影絵による水と動植物、人間のつながり

・水の恵みと風水害の脅威

①手影絵 劇団かかし座

②ナレーション 池田昌子

(2) 水辺のギャラリー

水の恵みを受けている人々の暮らしを、風景写真（12点）で映し出している。

- ・ガンジス川（インド）
- ・水の都ベネチア（イタリア）
- ・桂林（中国）
- ・棚田（マレーシア）
- ・イエローストーンの間欠泉（アメリカ）
- ・イグアスの滝（ブラジル・アルゼンチン）
- ・ガンジス川の沐浴場（インド）
- ・ベネチアのゴンドラ（イタリア）
- ・水上マーケット（タイ）
- ・田植え（マレーシア）
- ・魚釣り（北米）
- ・川遊び（兵庫県）

(3) 水の星の賛歌

自然の水環境の中での、豊かな水と自然の恵みに支えられた私たちの豊かな暮らし、それは、風水害に遭遇する危険性、災害の脅威と隣り合わせであることを忘れてはならない。水がもたらす恵みと災いについて、大型映像とナレーションを使い伝えることにより、川の近くに住むことが潜在的にもっている風水害の危険性に警鐘を鳴らす展示となっている。

- ・降雨→森の保水→川の形成等、水循環の流れ
- ・水の恵みに支えられた流域での生活風景
- ・風水害の発生

① 2009年九州集中豪雨 ② 2004年台風23号円山川 ③ 2009年佐用町水害

〔映像内容〕

2009.7.24 福岡市

（雨の降る中買い物袋をもつ人→地面をたたきつける雨→屋根をたたきつける雨）

2005.9.6 博多（台風14号）（水路からあふれる水）

2009.7.25 広島県呉市（荒れる川）

2008.7 金沢市（流れるゴミ箱→暗渠に詰まる木々）

2004.10.21 出石川（台風23号）（ヘリコプターからの空撮）

2006.11.6 宮崎市・東郷町（台風14号）

（水に吞まれひっくり返った倉庫→水没したゴミ収集車）

2004.10.21 豊岡市（台風23号）（水に沈む街、車）

2009.8.10 岡山県美作市（台風 9 号）（土砂に埋もれた家と車）

2005.9.6 鹿児島市（台風 14 号）（倒れた大木と信号機）

（4）水の星の賛歌から風水害の脅威への通路部分

風水害の被害写真の展示

- ・ベトナムの水没した街
- ・オーストリアの水害にあった山岳地帯
- ・アメリカの竜巻の様子
- ・アメリカの竜巻に破壊された住宅
- ・ハリケーンカトリーナの NASA 衛星写真

（5）風水害の脅威

上下二段の 150 インチの大型スクリーンで、国内外で発生した台風、ハリケーン、洪水等の実写映像を映し出し、風水害の脅威を体感できる。

〔映像内容〕

- ・阪神大水害（1938 年・昭和 13 年）
新神戸～加納町、元町、二宮など、神戸周辺（フィルム提供：浅田さん）
- ・2006 年福岡台風 14 号（家を流そうとする濁流→流れてきた岩石など→濁流を命綱頼りに渡る→暴風にけむる街→街を襲う強風→救急車とサイレンの音→地下街に流れ込む濁流）
- ・2004 年イギリスコーンウォール州ボスキャッスル(BBC) (濁流に流される車の群れ) →アメリカ (BBC) (流される牧場のサイロ→流され崩れる白い家)
- ・2006 年福岡台風 14 号（濁流、道をふさぐ）

（幕間の映像）

伊勢湾台風→ハリケーンカトリーナ→佐用町水害

（風水害の被害写真）

- ・ハリケーンカトリーナ（米国）（2 枚）
- ・集中豪雨による土石流（イタリア）
- ・サイクロン・アイラ（バングラデシュ）（2 枚）
- ・モンスーンによる洪水（ベトナム）

（6）市民ギャラリー

風水害の脅威に立ち向かう、市民や国内外の防災機関、兵庫県等の防災対策の取り組みを吊りパネルで紹介している。

- ・DRA 国際防災機関の風水害被災地における支援活動

- ・人と自然が仲良く共生できる川づくりの取り組みなど
- ・マラウイ共和国での堤防強化 (ISDR)
- ・リベリア共和国での排水設備修復 (ISDR)
- ・バングラサイクロンシェルター (UNCRD)
- ・コスタリカフルタイヤで堤防 (ADRC)
- ・アジアコーカサス研修 (ADRC)
- ・土盛り上の住宅、トイレ (EDM)
- ・計画的・重点的な治水対策 (兵庫県)
- ・風水害 雨量・水位情報 (兵庫県)
- ・防災情報・危機情報の提供 (兵庫県)
- ・佐用町台風9号の復旧状況 (兵庫県)
- ・六甲砂防事務所 六甲グリーンベルト事業 (国土交通省)
- ・兵庫県義援金プロジェクト (兵庫県)
- ①インドネシア スマトラ沖大地震津波 (2004 年 12 月)
- ②米国ハリケーンカトリーナ (2005 年 8 月)
- ③インドネシア ジャワ島中部地震 (2006 年 5 月)
- ④ミャンマーサイクロンナルギス (2008 年 5 月)
- ⑤中国四川省大地震 (2008 年 5 月)

(7) あしたへ向かって

- ・防災・減災への取り組みについて考え、語り合う交流サロン
- ・展示内容を振り返り、自らが防災・減災対策に取り組むための必要な情報を得たり、きっかけを見つけるコーナー
- ・小・中・高校、大学生による取り組み事例 (ぼうさい甲子園の表彰事例) 紹介 (平成 23 年 9 月から東館 2 階へ移動)
- ・ひょうご防災新聞シリーズ (神戸新聞連載 (月 2 回) 記事をめぐりパネル化)
- ・最近のトピックスコーナー (新聞記事など最近の話題の提供)
- ・防災学習パソコン 5 台 (防災専門機関 H P の学習ページに直結)
 - ①防災科学技術研究所 H P 「自然災害について学ぼう」
 - ②消防庁 H P 防災危機管理 e カレッジ (一般向け、消防団員向け、児童向け等)
 - ③朝日防災学検定
 - ④兵庫県地域の風水害対策情報
 - ⑤震度 6 強体験シミュレーション (内閣府)
 - ⑥NHK ボランティアネット防災もの知りノート



- ⑦クロスロードゲーム紹介
- ⑧C G 「今、淀川が決壊したら」(国土交通省)
- ・特別展示「東日本大震災とこれからの防災・減災」
 - 東日本大震災の被害状況、復旧状況や東南海・南海地震への備えについて紹介
- ・資料室からのお知らせコーナー
- ・B G M 「しあわせ運べるように」(日本語版、中国語版)
- ・エピローグ 壁画 「宇宙から見た地球」

I 章 展示

3 節 企画展の概要

1 項 平成 23 年度に開催した企画展等（展示、イベント、出展）一覧

	開催時期	名 称
1	4月12日～3月31日	人と防災未来センター研究部 東日本大震災現地レポート（平成24年4月以降も継続）
2	4月19日～7月10日	増加する巨大風水害 備えと減災
3	5月 3日	ジャンボひまわりの苗プレゼント&育て方講習
4	5月 4日	外部イベント「COMIN' KOBE」
5	6月 7日～6月19日	学んで体験しよう！六甲山の災害展
6	6月 9日～6月10日	展示会「地域防災防犯展」
7	6月18日～6月19日	風水害への備えを学ぼう！体験DAY
8	7月 7日～8月 2日	アウトリーチ展示会「つながろう、いっぽんでニッポン。」
9	7月16日～7月17日	ひとぼうユースミーティング「ボランティアに行こう！東日本とともに、今・ミライ。」
10	7月18日、9月 4日	アウトリーチプログラム「いざというときに、備えよう！ザビエコくんの防災教室」
11	7月20日～8月31日	『夏休み防災未来学校2011』
(1)	7月20日～8月31日	特別上映3Dドキュメンタリー映像「東日本大震災津波の傷跡」（9月以降も継続）
(2)	7月20日～8月31日	ひとぼう体験ポイントカード（来館者ポイントサービスの実施）
(3)	7月20日～8月31日	工作ショート・プログラム (A) ロープワークでなわばしごプレスレット (B) カラフル！プチバトー紙皿
(4)	7月20日～8月31日	フリープログラム「げんさい・おりがみ」
(5)	7月23日	節電サマーの応援大使ペンギンちゃん来館！
(6)	7月23日、7月24日	ショート・プログラム「おどろき！発見！クール・サマー」
(7)	7月23日、7月24日、 7月30日、7月31日、 8月 6日、8月 7日、 8月13日、8月14日、 8月27日、8月28日	体験コーナー「クールサマー！猛暑対策グッズ&おためし！防災グッズ」
(8)	7月23日、7月31日、 8月13日、8月27日	講談師・太平洋の子ども減災講談「稲むらの火」
(9)	7月24日	おはなしひろば
(10)	7月30日	水濡れ資料応急処置ワークショップ
(11)	7月30日、7月31日	はじめての絵手紙教室－被災地に心とどけよう！－
(12)	8月 6日、8月28日	津波の実験「サイエンス・ワークショップ」

	開催時期	名 称
(13)	8月 7日	災害救助犬とふれあおう&デモンストレーション
(14)	8月 7日、 8月14日	ショート・プログラム「使って、なるほど！防災グッズ」
(15)	8月13日	摂南大学防災ビレッジ「ストローで遊ぼう！」
(16)	8月13日	消防車来場&水消火器でまと当て体験！&煙ブースを体験
(17)	8月14日	ペットボトル地震計をつくろう！&「満点計画」の超小型地震観測計にふれてみよう。
(18)	8月19日、 8月20日	減災女子力UP講座
(19)	8月20日、 8月21日	地震体験車で揺れを体験しよう！
(20)	8月20日、 8月21日	防災楽習迷路に挑戦！
(21)	8月20日、 8月21日	シンサイミライノハナを咲かせよう！&ショートプログラム
(22)	8月27日	どっちを選ぶ？分かれ道を体験するゲーム「クロスロード」&いろいろ防災ゲーム
12	8月27日～ 8月28日	外部イベント「NHK防災パーク2011」
13	10月 4日～12月 4日	兵庫と水害
14	10月 4日～10月23日	第14回ジャンボひまわりコンテスト
15	10月12日～10月14日	展示会「緑十字展2011」
16	10月16日～10月17日	外部イベント「ふれあいフェスティバル」
17	11月18日～11月19日	展示会「神戸マラソンEXPO」
18	12月 3日	ひとぼう未来サークル公開セミナー「今、もう一度考えてみる防災グッズの備え」
19	12月17日	平成23年度中播磨地域防災講習会「防災教室」
20	1月 7日～ 3月31日	東日本大震災復興支援企画展「3.11の声、1.17からの手紙」(平成24年4月以降も継続)
21	1月11日～ 1月29日	防災力強化県民運動ポスターコンクール入賞作品展
22	1月11日～ 1月29日	1.17の絆 ところを伝える絵手紙展2012
23	1月15日	外部イベント「シンサイミライ Meeting 2012」
24	1月17日	ひょうご安全の日のつどい
25	1月29日	外部イベント「イザ！カエル大キャラバン in サンボーホール」
26	2月 2日～ 2月 3日	展示会「震災対策技術展」
27	2月11日	2011年度防災教育チャレンジプラン活動報告会防災関係展示
28	2月28日～ 3月31日	T e L L - N e t フォーラム2012関連展示「津波災害100年の語り継ぎ」(平成24年4月以降も継続)
29	3月 6日～ 3月25日	減災デザインプランニング・コンペ2012&成果プラン展示

2 項 企画展の内容

1 人と防災未来センター研究部 東日本大震災現地レポート（4月12日～3月31日）

東日本大震災の支援調査を目的として、被災地へ派遣された人と防災未来センター研究員が、被災地で撮影した写真や被災地の被害現状をパネル展示。展示内容は随時更新し、3月末日現在で Part 1～3 まで開催。平成24年4月以降も継続。



展示を見る来館者（Part1）



展示風景 (Part3)

2 増加する巨大風水害 備えと減災（4月19日～7月10日）

巨大台風、サイクロン、ハリケーン等に起因する災害被害は、日本でも世界でも後を経たず、またゲリラ豪雨と呼ばれる一局集中の極端な降雨も増えている。これらの災害の事例データを元に、昨今の風水害の脅威、社会に与えている被害を展示とともに、今後の被害を防ぐための対処法と備えを紹介。



展示風景（入口付近）



展示風景

3 ジャンボひまわりの苗プレゼント＆育て方講習（5月3日）

被災当時、瓦礫の街に咲き、心のささえとなったひまわり。その原点を見つめ続ける企画として、例年NPO法人ひまわりの夢企画（代表：荒井 勤）と共同で「ジャンボひまわりコンテスト＆わたしのひまわりものがたり」を行っており、今年の募集開始（ひまわりの育成開始）にあたり、ひまわりを大きく育てる方法をレクチャーし、特別大きく育つひまわりの苗をプレゼントする催しを行った。



育て方講習会の様子



ひまわりの苗の配布

4 外部イベント「COMIN' KOBE」(5月4日)

阪神・淡路大震災を風化させず、若い世代へ震災を考えるきっかけを作るために神戸で開催される音楽イベント。会場内の「震災 IMA MIRAI ヴィレッジ」へパネル展示及び防災グッズ体験コーナーを出展。



防災グッズ体験



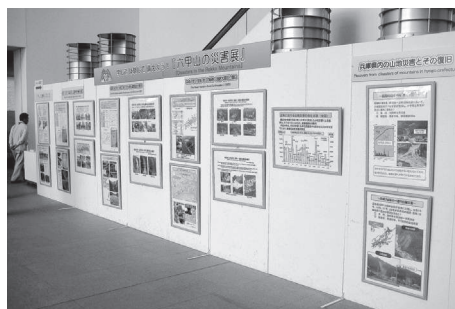
USTREAM中継

5 学んで体験しよう! 六甲山の災害展 (6月7日～6月19日)

六甲山系はこれまで度重なる土砂災害が発生してきた。梅雨時期、台風時期を控え、土砂災害に関する知識を身に付けてもらうため開催した。土石流発生の様子を再現したモデル実験や、時間雨量 10 ミリを目や耳で体感できる降雨体験装置「カップくん」などを展示。



土石流発生実験を観る来館者



パネル展示

6 展示会「地域防災防犯展」(6月9日～6月10日)

インテックス大阪にて開催。人と防災未来センター紹介及び「人と防災未来センター 研究員 東日本大震災現地レポート」の展示。



展示ブース



現地レポート展示

7 風水害への備えを学ぼう！体験DAY（6月18日～6月19日）

風水害の知識を深め、防災情報の入手歩方や備えについて伝授するガイドイベントを各協力団体と協同で実施。

8 アウトリーチ展示会「つながろう、いっぽんでニッポン。」（7月7日～8月2日）

三宮センター街より依頼を受け、三宮インフォメーションギャラリーHATENAで、阪神・淡路大震災を経験した神戸から東日本大震災被災地へ送るメッセージを通行人の方に参加していただく形で実施。人と防災未来センター研究員による被災地写真の展示も同時開催。



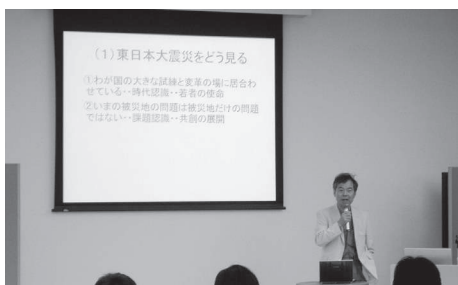
展示会場風景



プログラム参加者の様子

9 ひとぼうユースミーティング「ボランティアに行こう！東日本とともに、今・ミライ。」（7月16日～7月17日）

東日本大震災において、ボランティア活動など被災地支援を体験した関西の学生やNPO等の支援団体が、それぞれの活動内容を紹介。また実際に被災地支援の経験を持つ人が、今後現地支援を行う人のために情報提供を実施。



セミナーの様子



会場風景

10 アウトリーチプログラム「いざというときに、備えよう！ザビエコくんの防災教室」

(7月18日、9月4日)

堺コンベンション協会から依頼を受け、堺駅観光案内所にて、夏休み防災未来学校で実施したショートプログラムをアウトリーチで実施。



プログラム会場の様子

11 『夏休み防災未来学校2011』（7月20日～8月31日）

子どもから大人まで、楽しみながら防災について学ぶことができる多数のプログラムを夏休み期間中に開催。

(1) 特別上映3Dドキュメンタリー映像「東日本大震災 津波の傷跡」

(7月20日～8月31日)

東日本大震災被災地の1ヵ月後の様子取材した3Dドキュメンタリー映像を特別上映（制作：NHKメディアテクノロジー）。9月以降も継続。



取材班の撮影風景



映像の一部（南三陸町防災対策庁舎）

(2) ひとぼう体験ポイントカード（来館者ポイントサービスの実施）

(7月20日～8月31日)

センターオリジナルの「スタンプカード（ポイントを貯めるカード）」を発行し、夏休み期間中に、センターが提供する各種のプログラム・体験コーナーへの参加に対し、参加者のカードにスタンプを捺印し、参加者は貯まったポイントをポイント数に応じた景品と交換できる。ポイントの発行は8月31日まで、ポイントの交換は9月30日まで実施。

(3) 工作ショート・プログラム（7月20日～8月31日）

いざという時に役立てられるよう覚えておきたい知識や技術をテーマに、誰でも簡単に作れる楽しい工作プログラム2種を開催。

(A) ロープワークでなわばしごプレスレット

(B) カラフル！プチバトー紙皿



プログラム参加風景 (A)



プログラム参加風景 (B)

(4) フリープログラム「げんさい・おりがみ」（7月20日～8月31日）

紙スリッパを折り方見本をみながら自由に作れるコーナー。



プログラム参加風景

(5) 節電サマーの応援大使ペンギンちゃん来館！（7月23日）

暑い夏を節電で乗り切るために、節電大使として神戸花鳥園よりペンギンが来館。



来館者の様子

(6) ショート・プログラム「おどろき！発見！クール・サマー」(7月23日、7月24日)

“電気を使わずにいかに涼しく過ごすか”のノウハウを提案するミニセミナーを開催。



参加者の様子



クールグッズ

(7) 体験コーナー「クールサマー！猛暑対策グッズ&おためし！防災グッズ」

(7月23日、7月24日、7月30日、7月31日、8月6日、8月7日、
8月13日、8月14日、8月27日、8月28日)

“節電”がテーマとなった平成23年夏。「クール・サマー！猛暑対策グッズ」は、電気使用を抑えつつ涼む方法をいろいろ試すコーナー。「おためし！防災グッズ」は、日頃馴染みの薄い防災用品に触れてもらうコーナー。



防災グッズを体験する来館者



説明を行うスタッフと来館者

(8) 講談師・太平洋の子ども減災講談「稲むらの火」

(7月23日、7月31日、8月13日、8月27日)

昔ながらの逸話を語りで伝える「講談」で、防災・減災の学びを伝える、人と防災未来センターオリジナルの作品を上演。



会場の様子



講談師・大平洋氏

(9) おはなしひろば（7月24日）

恒例の「おはなしひろば」で、楽しい絵本の読み聞かせや人形劇を実施。



絵本の読み聞かせ



人形劇

(10) 水濡れ資料応急処置ワークショップ（7月30日）

水害などで水にぬれてしまった写真や大切な書類は、どのように修復すればいいのか、実際に修復する方法を体験するワークショップを実施。会場内で「東日本大震災被災資料レスキュー写真展」を同時開催。



修復作業の様子

(11) はじめての絵手紙教室－被災地に心とどけよう！－（7月30日、7月31日）

人と防災未来センターでも例年開催されている絵手紙教室を、今夏は東日本大震災で被災された方々へ想いを伝えるプログラムとして開催。



会場風景



参加者の様子

(12) 津波の実験「サイエンス・ワークショップ」(8月6日、8月28日)

津波が普通の波とどう違うのか、その特徴をミニチュア模型を使って、センター研究員による実験解説を実施。



研究による解説



実験を行う参加者

(13) 災害救助犬とふれあおう&デモンストレーション(8月7日)

災害救助犬が、倒壊した建物でどのように救助活動を行うのかのデモンストレーションを実施。



救助犬によるデモンストレーション



救助犬とのふれあい

(14) ショート・プログラム「使って、なるほど! 防災グッズ」(8月7日、8月14日)

使い方を覚えておけばいつかきっと役に立つ、防災グッズに実際に触れて学ぶプログラムを開催。



参加者の様子

(15) 摂南大学防災ビレッジ「ストローで遊ぼう！」(8月13日)

摂南大学の学生による、建物の強度を試すストローを使った建築模型作りプログラムを開催。



会場の様子



手作り模型の強度を試す参加者

(16) 消防車来場＆水消火器でまと当て体験！＆煙ブースを体験(8月13日)

いざという時のために、消火器の使い方を試すプログラムを神戸中央消防署の協力を得て開催。



消防車の説明を受ける来館者



煙ブースを体験する来館者

(17) ペットボトル地震計をつくろう！＆「満点計画」の超小型地震観測計にふれてみよう。
(8月14日)

本物の地震計で揺れを計るとともに、夏休みの工作にもなる地震計を手作りするワークショップを開催。



地震計作りの様子



手作り地震計で実験を行う参加者

(18) 減災女子力UP講座（8月19日、8月20日）

避難所での女性特有の悩みや困ったことを少しでも克服できるアイデアを身につけるためのプログラムを開催。



会場の様子



参加者の様子

(19) 地震体験車で揺れを体験しよう！（8月20日、8月21日）

神戸市民防災総合センターの協力で地震体験車による大地震の揺れ体験を実施。



地震体験車で震度7を体験

(20) 防災楽習迷路に挑戦！（8月20日、8月21日）

迷路を進みながら、防災について学ぶことができるプログラムを開催。



受付の様子



参加者の様子

(21) シンサイミライノハナを咲かせよう！&ショートプログラム

(8月20日、8月21日)

東本大震災被災地に想いを届けるため、黄色い花びらにメッセージを描くプログラムを開催。



会場風景



ショートプログラムの様子

(22) どっちを選ぶ？分かれ道を体験するゲーム「クロスロード」&いろいろ防災ゲーム

(8月27日)

いざというとき、道をひとつしか選べないとしたらどちらに決めるのかー運命の分かれ道をゲームで体験し、備えにつなげるプログラムを開催。

12 外部イベント「NHK防災パーク2011」(8月27日～8月28日)

NHK放送センター(東京)にて開催。子どもやファミリー向けプログラムとして、夏休み防災未来学校実施の工作ショートプログラム「ロープワークでなわばしごブレスレット」等を実施。



ショートプログラム会場



「クール防災」参加者の様子

13 兵庫と水害(10月4日～12月4日)

兵庫県下で明治以降から現在に至るまでに発生した水害を事例としてとりあげ、過去の災害から学ぶ教訓を未来に継承するための展示を開催。

Ⅱ章 資料収集・保存

- 1 資料収集と整理
- 2 資料室における相談業務・情報発信
- 3 震災資料の活用
- 4 資料を通じた交流・ネットワーク

1 節 資料収集と整理

1 項 一次資料

資料室で保管する震災資料は、「一次資料」（震災に直接関連する資料）と「二次資料」（図書・刊行物）に分類される。

1 一次資料の収集

資料室で保存する一次資料は、平成 14 年 4 月のセンター開館以前の事業で収集されてきた約 16 万点の資料と、開館後の調査・収集活動によって集められた資料からなる。

(1) 開館前

開館前の事業とは、平成 7 年 10 月から兵庫県からの委託を受けた（財）21 世紀ひょうご創造協会によって開始された収集事業であり、また平成 10 年 4 月以降は（財）阪神・淡路大震災記念協会が、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきたものである。さらに平成 12 年 6 月から約 2 年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用した大規模な震災資料の調査事業において約 16 万点の資料が収集された。（詳細は参考資料 6－(2) を参照のこと）

(2) 開館後

平成 23 年度に行った資料収集調査は、新たな所在調査と既存調査を含め計 8 回で、平成 24 年 3 月末現在で、一次資料提供件数は 3,759 件（資料点数約 17 万 8 千点）となった（詳細は参考資料 6－(4) を参照）。

〈収蔵状況〉

（平成 24 年 3 月末現在）

種類	平成 22 年度末	映像・音声	紙	モノ	写真 ※ (アルバム等)	平成 23 年度末 計
点数	177,027	1,158	169,147	1,421	5,896	177,622

2 一次資料の公開

震災一次資料の公開は、「提供者との協議」の上公開について許諾を得、さらにセンターの公開基準にあわせて、個別資料の「公開判別」を行った上で行われる。

(1) 提供者との協議

まず、第 1 段階である「提供者との協議」については、資料提供の段階で、すでに公開についてセンターに一任された資料も多いが、平成 16 年度末段階で、一次資料約 16 万点のうち約 7 万点、提供先件数にして約 820 件が、公開について別途協議が必要とされていた。平成 17 年度以降、資料提供者と公開に向けての協議を進めたが、平成 19 年度末には協議が必要な残件数は約 270 件（約 5 万 5 千点）となった。しかし、協議を進めていくにつれ、提供者の転居先が不明な場合も増えてきたため、未協議の資料目録の公開を先に進め、利用者からの閲覧希望がある資料を優先的に協議していく方針に変更した。これを受

けて、平成 21 年度には今後個別協議が必要な資料、約 48,900 点の目録公開の作業を行った。

(2) 資料の公開判別

第 2 段階である「資料の公開判別」については、平成 23 年度は協議済であるが公開判別が未了の資料と新たに受け入れた資料を合わせて約 595 点の判別を行った。

2 項 震災資料の保存

1 環境調査・管理・保存

(1) 資料保存環境調査の実施

原資料の劣化を防ぎ、収集した時の状態を可能な限り維持・保存していくためには、資料保管に適した環境を整えることが必要である。そのため資料室では、主に資料収蔵スペースにおいて年 1 回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づいた資料保存環境の整備を進めている。調査を定期化して今年度で 8 年目となった。

調査は資料保存環境の変化を調べるために前年度とほぼ同じ箇所（3 階展示フロア内の収蔵スペース、5 階の作業スペース、7 階の 2 つの収蔵庫）で実施した。その結果、昆虫類および真菌類が捕獲された場所が確認されたので、収蔵庫内に粘着マットを置くなどの対策を継続的に実施している。また、清掃を強化するとともに、専門業者と相談して温湿度コントロールや定期的な殺虫処理などの対策を講じていくことを検討している。

(2) 温度・湿度データ管理の実施

保管状態把握のため、収蔵スペースの温度と湿度を継続的に計測している。昨年度に引き続き、今年度も 3 階と 7 階の資料収蔵スペースに温湿度データロガーを配置し、年間を通じた温度と湿度のデータを保存した。年間を通じた計測結果に基づいて、空調設定を変更するなど、3 階展示フロアおよび収蔵庫の温度・湿度の安定化を図っている。また、湿度を安定させるため、3 階展示フロアに収蔵している保存箱内に調湿紙を導入している。さらに、昨年度には 7 階収蔵庫の空調工事を行い、その効果を観測中である。

(3) RP システムの導入

資料保存環境調査で、昆虫類・真菌類が捕獲されたこと、寄贈資料中、水損などでカビが発生した跡が見られるものがあったことから、三菱ガス化学株式会社開発の RP システムを導入している。

これは、資料を RP 剤と呼ばれる脱酸素剤とともに酸素透過量の少ない袋に密封することで、化学薬品を使うことなく、長期間にわたる防虫・防カビ効果が期待できるものである。

2 音声資料の媒体変換の実施

音声資料として、カセットテープ、コンパクトディスク、ミニディスクに記録された資料を約 500 点所蔵している。しかしながら磁気テープ資料は、15 年以上経過したテープは注意深く扱う必要がある。特にカセットテープはオープンリールなどのテープに比べると、

薄く、弱く、期待される寿命は非常に短いとされる。また、磁気テープの再生機器も新しい媒体の再生機器に取って代わられている。今後、再生機器が故障・経年劣化した場合に修理・新規購入が困難となり、テープなどがあっても利用できないという事態も十分考えられる。

当センターが所蔵するカセットテープは15年以上経過するものが多く、媒体変換を始める必要が生じている。そのため、まず最も劣化が憂慮されるカセットテープから優先して電子化を行うこととした。

音声資料を取り扱う専門技術と専用機材を有し、将来にわたり過変性及び互換性を確保して長期保存・利用が可能な処置を行い、情報漏洩防止対策が万全な業者として、株式会社マイクロサービスセンターを採用した。今年度は、120分カセットテープ100本のデジタル変換を行った。

3項 震災資料の利用

1 閲覧

「公開判別」で、「公開可」および「条件付可」とされた一次資料は、閲覧申請を経て即日資料室内で閲覧することができる。なお、「公開可」とされた資料は実物を、「条件付可」とされた資料は、専門員が複写の上、プライバシー情報を保護して出納している。

平成23年度の一次資料の閲覧申請件数は、23件、132点であった。主に大学教員や学生、企業研究員による研究・調査などに活用された。また、特別利用申請件数は、1件で、研究目的のものであった。

2 複写・撮影

平成23年度の複写件数は、8件であった。複写の対象となる資料は主として紙資料と写真資料が多い。大学教員や、学生・大学院生などによる研究目的のほか、新聞記事やテレビ番組、自治体・企業の広報等での利用を目的としたものが多かった。

また平成23年度の撮影件数は2件であった。紙資料やモノ資料を中心として、企画展のパンフレット作成、テレビ番組制作などに利用されている。

3 貸出

防災を普及するという目的に限り、今年度も兵庫県広報課の写真や、一般から提供された写真をデータ化して貸出を行った。貸出写真は出版物に活用された場合、成果物を二次資料として資料室で受け入れることもあるため、貸出が資料収集活動にも繋がっている。貸し出した写真資料は、地方自治体が作成する防災パンフレット、広報紙、展示パネルなどに活用された他、テレビや新聞をはじめとしたメディアにおいて、阪神・淡路大震災関連や防災関連の特集などで使用された。



4 項 二次資料（図書等刊行物）の収集

二次資料とは主に図書・雑誌・ビデオ等視聴覚資料などを指す。

（財）21世紀ひようご創造協会、（財）阪神・淡路大震災記念協会から引き継いだ約23,000点の震災関連資料に加え、阪神・淡路大震災関連や、その他の災害（地震・津波などの）資料、防災関連の資料、その他資料室として必要な参考文献について収集している（参考資料6－(3)参照）。

特に、平成23年度は、東日本大震災関連記事を掲載している雑誌や写真集、新聞縮刷版などの収集に力を入れた。

〈収蔵状況〉

（平成24年3月末現在）

種類	平成22年度末	図書	雑誌	チラシ	映像	その他	計
点数	35,421	12,296	17,659	1,458	826	4,217	36,456

2 節 資料室における相談業務・情報発信

1 項 相談業務の意義

資料室への相談は、来室者に留まらず、電話や文書、ときにはメールの形態をとって寄せられる。

資料室開設以来の相談件数の累計は 1,950 件を超え、相談者の相談内容も多岐にわたっている。特に近年の動向として、相談者の専門分野における高度で詳細な資料の提供を希望するケースが漸増傾向にある。その一方で、特に自分が住む地域の活断層地図の閲覧をはじめとし、家具の転倒防止に関する資料など、個人からの災害対策、防災・減災についての相談も多かった。

また、今年度は、2011 年 3 月に発生した東日本大震災に関連して、以下のような相談内容が増加した。第一に、東日本大震災における被害状況・復旧や復興状況の比較対象として、1995 年の阪神・淡路大震災の当時の状況を質問するものである。第二に、津波のメカニズム、過去の津波災害の被害状況、今後予想される津波災害に関するものである。この相談内容は、東日本大震災に関する報道などで、津波の恐ろしさが広く一般に周知されたため、研究者や報道関係者ではない、一般の方からも相談が寄せられた。さらに、今後予想される津波災害のなかでも、東海・東南海・南海地震と、それに伴う津波に関する相談が数多く寄せられた。特に、ハザードマップや地域防災計画など、相談者にとって身近な事柄に関する相談が多数であった。

このように、市民にとって身近な問題から高度専門的なものまで、年間を通じて寄せられる多くの相談に対して、きめ細かく対応することは、阪神・淡路大震災の教訓を発信することを 1 つの使命とする人と防災未来センター資料室にとって非常に重要な意義がある。

そのため、資料室スタッフの特性を活かし、図書や資料、インターネット等による従来の手順の情報提供はもちろん、他機関等との連携も併せて行い、的確に相談者に提供することが、より一層求められる。資料室では、過去の相談業務の内容をデータベース登録することにより、今後の同様の質問には迅速に対応できるようにしている。

2 項 相談業務の主な内容、相談項目

1 相談者地域

相談者地域別内訳は、近畿圏が最も多く、次いで関東地方が多かった。

2 相談者内訳

今年度の相談者内訳では、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響から、例年とは異なり、報道機関からの質問が最も多かった。相談者は、東日本大震災の比較対象として、阪神・淡路大震災に関する情報提供を求める傾向があった。次いで、個人、行政、

教育機関の順に多い。

3 相談内容

相談内容としては、1項で述べたように、今回の震災と、阪神・淡路大震災との比較を求められる相談が多かった。前年度に引き続き、特に報道機関からは、具体的な数値を求められることが多かった。また、個人や行政機関、企業からは、前年度に引き続き、阪神・淡路大震災の際の救援活動の内容、救援物資としてどのようなものが活用されたかなど、具体的な事例を質問されることが多かったほか、東海・東南海・南海地震をはじめとした、今後予想される地震・津波に関する対策や、防災訓練に関わる情報提供を求める声も多かった。

相談業務 (平成 23 年度分 No.1904 ~ 1964)

相談者住所内訳

地 域	人 数
北海道・東北	4
関 東	17
信 越・北 陸	0
東 海	6
近 畿	26
中 国	2
四 国	0
九 州・沖 縄	2
海 外	1
不 明	2
計	60

相談業務相談者内訳

種 類	人 数
行 政 関 係	10
研 究 教 育 機 関	8
報 道 関 係	16
企 業	3
各 種 団 体	4
個 人	14
外 国	0
当 セ ン タ ー 内	4
そ の 他 (医療関係など)	1
計	60

相談業務相談内容内訳

相談内容	件 数
阪神・淡路大震災関連 (被害状況、復興状況、東日本大震災との比較など)	29
その他災害 (地震、火山、台風など) について	10
外国の災害について	2
防災関連 (防災教育、防災訓練など)	12
建築関係	2
活断層について	1
地震全般について (メカニズムなど)	1
当センターについて	2
資料室の資料貸出に関することについて *ただしビデオ貸出は除く	0

寄贈についての質問	1
医療関連	0
その他（詩や CD などの質問も含む）	0
計	60

3 項 ビデオ・DVD の貸出

営利を目的としない防災学習等に関し、学校・団体等へのビデオ・DVD の貸出を行っている。現在ビデオ 22 本と DVD27 本を貸出用としており、23 年度は 3 月末までに 165 件(291 本)の貸出を行い 27,071 人が視聴した。

ビデオの貸出先

貸出先別	件 数	本 数
学校関係	97	167
行政関係	4	6
団 体	47	85
企 業	15	28
その他（病院など）	2	5
計	165	291

1 貸出先

貸出は学校関係が最も多く、地震についての防災教育や阪神・淡路大震災についての学習資料としての使用が目立つ。そのほか団体や企業内で自主的な防災学習への利用も増加している。

2 貸出地域

地域別の申込では、近畿地方が最も多く、全体の約 78%を占める。続いて東海地方(全体の約 11%)、中国地方(全体の約 6%)となっている。昨年度は、近畿地方の次に関東地方からの貸出申し込みが多かったが、今年度は、東海・中国地方からの貸出申し込みが増加している。この要因のひとつとして、東日本大震災を受けて、東海・南海・東南海地震と、それに伴う津波への関心が高まっていることが挙げられる。

3 貸出ビデオ

貸出用映像記録の中で貸出回数が一番多かったものは DVD『ビジュアル版 幸せ運ぼう [中学生以上]』である。この作品はもともと震災学習用に作成されているため、細かいチャプターに分かれており、目的に応じて映像を選んで構成できる。また付属の CD-R に副読本や震災当時の新聞記事、写真などが入っており、広く防災教育に活用できるようになっている。

る。他には、救命活動の限界といわれる震災直後 72 時間に、消防・自治体・警察・病院等がどのように対処したのかを簡潔に 30 分でまとめたビデオ『震度 7 阪神大震災の教訓ドキュメント神戸 72 時間の記録』や、今後の地震対策として『地震に備えて今、やるべきこと』の貸出も多かった。また、今年度は新たに東日本大震災関連の DVD 貸出を開始した。

4 項 情報発信

1 インターネット検索およびホームページリニューアルについて

平成 17 年度に開始したインターネット検索は今年度も引き続き運用されている。一次資料については、資料によっては画像が閲覧できる。特に写真資料の画像がインターネットで閲覧できることは遠隔地での貸出申請の際に非常に役立っている。昨年度のシステム改修により、一次資料を検索した際にそれぞれの資料の資料番号が表示されるようになり、貸出申請や問い合わせがよりスムーズに行われるようになった。

また、二次資料は書誌データの他、目次等も表示し、資料の内容を推測しやすくしている。

そして、センターホームページ内の資料収集・保存のトップページでは、お知らせ欄を設け、現在資料室で開かれている企画展や資料室ニュース最新号の情報などを発信した。



＜インターネット検索画面＞



＜ホームページ画像＞

2 資料室ニュース

資料室では、平成 15 年 4 月から資料室ニュース（見開き 4 ページ）を発行してきた。

平成 23 年度は各号ごとに特集テーマを企画し、年 3 回各 2,000 部発行した。紙面の内容は、特集テーマに関する当センター所蔵の震災資料や図書の紹介、また、資料室に関する最新情報などである。今年度は特に、東日本大震災の被災地復興に役立つように配慮してテーマを設定した。

資料室ニュースは、資料室で配布しているほか、センターホームページからもダウンロードできるようにしている。

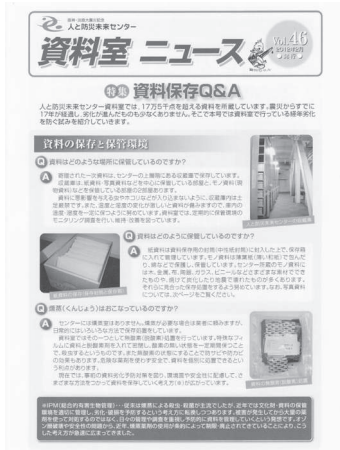
資料室ニュース URL: <http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html>

○今年度の特集テーマ

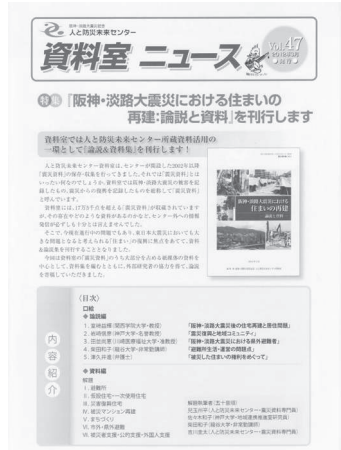
- ・「震災資料収集・保存事業を振り返る」(2011 年 11 月発行、Vol.45)
- ・「資料保存 Q & A」(2012 年 2 月発行、Vol.46)
- ・「『阪神・淡路大震災における住まいの再建:論説と資料』を刊行します」(2012 年 3 月、Vol.47)



Vol.45



Vol.46



Vol.47

3 『阪神・淡路大震災復興誌』全 10 巻および、震災資料関連報告書 3 冊のウェブ公開

資料室では、『阪神・淡路大震災復興誌』全 10 巻および、震災資料関連報告書 3 冊（『震災資料の分類・公開の基準研究会』報告書、『震災資料の保存・利用、及び活用方策研究会』報告書、『震災資料の公開等に関する検討委員会』報告書）を開架するとともに、希望者に配布してきた。2011 年 3 月に発生した東日本大震災を受けて、より多くの方々に利用していただくため、2012 年 3 月にこれらをウェブ上で公開し、PDF データとしてダウンロードできるようにした。

Ⅱ章 資料収集・保存

3節 震災資料の活用

1項 震災資料を活用した企画展

平成 23 年度は、センター資料室企画展にて所蔵震災資料を展示し、活用を図った。

企画展「兵庫と水害」（開催期間：平成 23 年 7 月 20 日～12 月 4 日（7 月 20 日から西館 5 階資料室で開催し、10 月 4 日からは西館 2 階防災未来ギャラリーにて開催））では、当センター所蔵資料に加えて、県内の 23 団体・個人の協力を得て、戦前からの兵庫県内の水害の歴史を展示した。昨年度の企画展「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」に引き続き、災害と地域形成をテーマに企画したもので、水害が兵庫県の都市形成や開発に影響を与えてきたことを振り返った。



<企画展「兵庫と水害」の展示風景>

2項 企画展関連行事の実施

企画展「兵庫と水害」の関連企画として、7 月 30 日に「水濡れ資料応急処置ワークショップ」と「東日本大震災・被災資料レスキュー写真展」、10 月 15 日には公開研究会「阪神間の都市形成と水害」を開催した。

ワークショップでは、歴史資料ネットワークから講師をお招きし、水に濡れた写真や書類をキッチンペーパーなどで応急処置する方法を参加者に体験してもらった。同じ会場内では、東日本大震災の被災地で続けられている被災資料救出活動の写真パネルを展示した。

公開研究会は、大阪歴史科学協議会帝国主義研究部会、大阪史学会近代史部会、神戸史

学会、日本史研究会近現代史部会の共催のもと開催した。報告者には、兒玉州平震災資料専門員の他、吉原大志氏（日本学術振興会特別研究員）を招き、島田克彦氏（桃山学院大学准教授）にコメンテーターを務めていただいた。研究会では、明治29年水害や室戸台風といった過去の風水害が取り上げられ、災害が常に起こり続けてきたことや、阪神間の都市形成に大きな影響を与えたことなどが報告された。



<ワークショップの様子>



<公開研究会の会場の様子>

3項 防災学習用ワークシートの普及

資料室では、次世代を担う子どもたちの防災学習をより一層進めるために、防災学習用ワークシートを作成している。対象は小学3年生以上。「No.1 地震ってどんなもの?」「No.2 避難所での暮らし-1」「No.3 津波ってどんなもの?」「No.4 トルコ北西部地震」の4種類がある。

ワークシートはセンターホームページからダウンロードできるほか、1階ロビーと資料室に設置している。解答を記入して資料室に持参すると、終了印と解答シート（解説付き）がもらえる。今年度も、当センターの事前・事後学習をはじめ、校外学習、夏休みの研究など、広く活用された。

work sheet

no. 1 地震ってどんなもの?

地震の大きさや種類について知識を深めよう。

① 地震の震度：震源地に最も近い地点で震度1.0を記録した地点を震源地とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。

② 震度とおおきさについて：震度1.0以上の地震は、震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。

③ 活動について：震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。震源地から震度1.0の地点までの距離を震源距離とする。

ワークシート No.1

work sheet

no. 2 避難所での暮らし-1

避難所での暮らしについて知識を深めよう。

① よく見られた風景：避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。

② もっとも困ったことのひとつ：避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。

③ 全国から集まった・・・：避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。避難所での暮らしについて知識を深めよう。

ワークシート No.2

work sheet

no. 3 津波ってどんなもの?

津波の発生について知識を深めよう。

① 津波の発生：津波の発生について知識を深めよう。津波の発生について知識を深めよう。津波の発生について知識を深めよう。

② 津波の高さ：津波の高さについて知識を深めよう。津波の高さについて知識を深めよう。津波の高さについて知識を深めよう。

③ 津波の被害：津波の被害について知識を深めよう。津波の被害について知識を深めよう。津波の被害について知識を深めよう。

ワークシート No.3

4項 ぼうさいみらい子ども文庫

2010年1月9日、震災の経験と教訓を次代に伝えるため、国際ソロプチミスト神戸より寄付を受け、「ぼうさいみらい子ども文庫」を開設した。児童向けの絵本、カルタ、ビデオ、防災体験ゲーム等を用いて、震災や防災を学べるよう工夫している。

(詳細は、参考資料6－(1)を参照)



5項 資料集の発行

人と防災未来センターが所蔵する一次資料を活用し、「阪神・淡路大震災における住まいの再建：論説と資料」を編集、刊行した。東日本大震災後の被災地においても大きな課題となっている被災者の住まいの復興に焦点をあて、阪神・淡路大震災当時の関連資料をふんだんに掲載した。また、論説部分には外部研究者の協力も仰ぎ、資料と論説の両側面から、復興過程や問題点を提示している。

【内容】

- | | | |
|-------|----------------------------|-------|
| (論説編) | 「阪神・淡路大震災後の住宅再建と居住問題」 | 室崎 益輝 |
| | 「震災復興と地域コミュニティ」 | 岩崎 信彦 |
| | 「阪神・淡路大震災における県外避難者」 | 田並 尚恵 |
| | 「避難所生活・運営の問題点」 | 柴田 和子 |
| | 「被災した住まいの権利をめぐって」 | 津久井 進 |
| (資料編) | I 避難所 | |
| | II 仮設住宅・一次使用住宅 | |
| | III 災害復興住宅 | |
| | IV 被災マンション再建 | |
| | (コラム) 区分所有法の抱えた問題点とその後の法改正 | |
| | V まちづくり | |
| | VI 市外・県外避難 | |
| | VII 被災者支援 | |
| (付 録) | 阪神・淡路大震災における震災資料の収集活動と利活用 | |

4 節 資料を通じた交流・ネットワーク

1 項 他機関との連携事業

今年度資料室では、他機関との連携による事業を実施し、震災資料の利活用促進を図った。

1 資料の横断検索システムの活用

資料室では 2009 年 1 月より、資料室収蔵資料と神戸大学附属図書館震災文庫収蔵資料の横断検索システムをホームページ上で公開し、2012 年 3 月からは兵庫県立図書館の震災関連資料も加わった。現段階では、資料室収蔵資料のうち図書資料を検索対象としている。今年度も資料室で新規に受け入れた図書資料のデータを更新し、新たに 1,002 件のデータを登録した（総数 36,269 件）。今後も震災資料利用者に横断検索の利用方法を伝えるなどして、さらなる利用者の増加を目指したい。

震災資料横断検索 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/crosssearch.html>

< 震災資料横断検索画面 >

2 項 震災資料専門員による講義

神戸学院大学での講義

主 催：神戸学院大学

実施日：平成 23 年 10 月 6 日（木）

テーマ：「震災資料の収集・保存と活用」

担当者：高野尚子、高森順子（震災資料専門員）

神戸学院大学防災・社会貢献ユニット開講の「防災論Ⅰ」の 1 講義を担当した。講義では、センター所蔵資料の収集経緯や資料の概要を伝えるとともに、資料の様々な活用事例を報告した。さらに、震災資料を収集、保存していくことの社会的意義にも触れた。また東日本大震災以降、阪神・淡路大震災との被害状況の比較や被災地支援について参照したい利用者が増加したことなどにも触れた。講義の最後に、実際の震災資料の迫力を伝えるために、震災当時の映像 DVD も上映した。



3項 震災資料の研修会・研究会

資料室では、震災資料に関する研究会等において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行い、他機関との交流を図っている。今年度は、東日本大震災を受けて、東北と神戸の図書館関係者を中心に、震災資料の収集・保存・活用について考える「東北被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」が神戸大学附属図書館で開かれた。そこで、人と防災未来センター資料室は、阪神・淡路大震災の震災資料の収集と保存の経緯、活用と今後の課題を発表した。

「東北被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」

主 催：神戸大学附属図書館

実 施 日：平成 24 年 2 月 21 日（火）

実施場所：神戸大学社会科学系図書館

参加機関は以下のとおり（順不同）。

東北大学附属図書館・岩手大学情報メディアセンター図書館・岩手県立図書館・宮城県図書館・saveMLAK・兵庫県立図書館・神戸市立中央図書館・神戸大学附属図書館震災文庫・人と防災未来センター資料室

<情報交換会の様子>

情報交換会には、東北から 4 機関、兵庫から 4 機関、文化・教育施設の被災・救援情報の発信と支援活動を行う saveMLAK の計 9 機関が参加した。東北の機関から、東日本大震災の震災資料に関する現状報告がなされ、兵庫の機関および saveMLAK から、阪神・淡路大震災に関する震災資料の収集・保存・活用についての経緯などが報告され、東日本大震災の震災資料に関する提言がなされた。各報告の後、自由討議が行われ、活発な議論がなされるとともに、各機関で交流が図られた。

4項 他機関によるセンター視察

資料室は、大学や各種団体などの他機関から視察を受け、震災資料の収集・保存について説明を行っている。また、資料の保存・活用など互いに抱える課題についての意見交換や阪神・淡路大震災に関する資料提供等の相談を受けたりしている。

今年度は以下の団体からの訪問を受けた。

- ・福島県災害対策本部（平成 23 年 7 月 5 日）
- ・ハーバード大学ライシャワー日本研究所（平成 23 年 7 月 22 日）
- ・JICA（平成 23 年 7 月 28 日）
- ・千葉商科大学（平成 23 年 8 月 24 日）

- ・日本展示学会（平成 23 年 9 月 7 日）
- ・千葉県立国府台高校（平成 23 年 11 月 1 日）
- ・NHK 放送文化研究所（平成 23 年 11 月 30 日）
- ・長岡震災アーカイブセンター（平成 23 年 12 月 13 日）
- ・北海道開拓記念館（平成 24 年 1 月 26 日）
- ・国立国会図書館（平成 24 年 2 月 8 日）
- ・神戸大学附属図書館「震災文庫」、東北大学附属図書館、岩手大学情報メディアセンター図書館、岩手県立図書館、宮城県図書館（被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会、平成 24 年 2 月 22 日）

5 項 センターから他機関への視察

資料室では、直面している様々な課題を解決すべく関係機関を視察している。専門の職員との意見交換や、研究会などへの参加により、課題の解決方策の参考とした。平成 23 年度の活動は以下のとおりである。

- ・神戸大学附属図書館「震災文庫」（平成 23 年 5 月 17 日）
- ・たちばな職員研修センター（震災シンポジウム、平成 23 年 5 月 28 日）
- ・プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン（脱酸処理見学、平成 23 年 7 月 7 日）
- ・国立民族学博物館（「博物館展示論」対策講座、平成 23 年 9 月 5 日・6 日）
- ・龍谷ミュージアム（「博物館展示論」対策講座、平成 23 年 9 月 7 日）
- ・江戸東京博物館（資料保存シンポジウム、平成 23 年 10 月 25 日）
- ・人・街・ながた震災資料室企画展（平成 23 年 11 月 15 日）
- ・国立国会図書館関西館（第 22 回保存フォーラム、平成 23 年 12 月 1 日）
- ・ひょうご国際プラザ交流ギャラリー（写真展セミナー、平成 23 年 12 月 9 日）
- ・神戸大学社会科学系図書館（被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会、平成 24 年 2 月 21 日）

また、東日本大震災に係る文化財の救出・保全のため、文化庁文化財レスキュー事業に参加し、当センターからは資料保全活動の経験を有する震災資料専門員 2 名を派遣した。

- ・宮城県農業高校（宮城県名取市）・東北芸術工科大学（山形県山形市）・せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）・NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城県仙台市青葉区・東北大学内）（平成 23 年 4 月 25 日～4 月 28 日）
- ・向田文化財収蔵庫（宮城県仙台市宮城野区）・NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城県仙台市青葉区・東北大学内）・東北大学防災科学研究拠点（宮城県仙台市青葉区・東北大学内）（平成 23 年 7 月 4 日～7 月 6 日）



さらに、東日本大震災における、民間および行政による震災記録活動の現状を調査するとともに、震災資料に関する情報提供のため、現地を訪問した。

- ・仙台文庫（宮城県仙台市青葉区）・せんだいメディアテーク（宮城県仙台市青葉区）・NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台（宮城県仙台市宮城野区）（平成 23 年 8 月 5 日～8 月 6 日）
- ・NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台（宮城県仙台市宮城野区）・hand in hand（宮城県塩竈市）・三陸こごかなネット（宮城県石巻市）・せんだいメディアテーク（宮城県仙台市青葉区）（平成 23 年 12 月 16 日～12 月 19 日）